

富士宮市文化財年報

第2号

平成23年度



2013

富士宮市教育委員会

富士宮市文化財年報

第2号

平成23年度

2013
富士宮市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成 23 年度に実施した富士宮市内における文化財関係事業の概要をまとめたものである。
- 2 文化財関係事業は、文化財保存管理事業、埋蔵文化財事業、郷土資料館事業、歩く博物館事業、その他の事業に分類した。
- 3 本書の執筆・編集は、富士宮市教育委員会富士山文化課学術文化財係各担当が行った。

4 平成 23 年度文化財関係組織

教	育	長	佐野 敬祥
教	育	次 長	矢崎 正文
富	士	山 文 化 課 長	渡井 一信
主	幹	兼学術文化財係長	馬飼野 行雄
主		幹	伊藤 昌光（歴史民俗担当）
主	任	学 芸 員	渡井 英誉（埋蔵文化財担当）
主		査	保竹 貴幸（埋蔵文化財担当）
主		査	小泉 工（文化財管理担当）
学	芸	員	梶山 沙織（歴史民俗担当）
嘱	託	員	田中 城久（埋蔵文化財担当）
嘱	託	員	佐野 恵里（埋蔵文化財担当）
嘱	託	員	志村 和恵（歴史民俗担当）

《表紙写真：朝霧高原茅場と富士山》

目 次

富士宮市文化財年報第2号の刊行にあたって	1
I 平成23年度の文化財保護事業	
1 概要	5
2 文化財関連事業一年の歩み	6
II 文化財保存管理事業	
1 文化財保護審議会	8
2 指定文化財保存管理事業	8
(1) 富士山本宮浅間大社防災施設保守点検補助事業	
(2) (特天) 湧玉池天然記念物再生事業	
(3) 史跡大鹿窪遺跡管理事業	
(4) 富士宮市「史跡富士山」整備基本計画策定	
(5) (史) 富士山 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業	
(6) 指定文化財(樹木)保護対策事業	
(7) 文化財防火デー	
3 文化財指定事業	11
(1) 妙蓮寺の下庫裏・大庫裏・玄関の追加指定	
(2) 国史跡「富士山」の追加指定	
(3) 「ふるさと文化財の森・朝霧高原茅場」の設定	
4 未指定文化財保存管理事業	13
(1) 年中行事調査事業	
III 埋蔵文化財事業	
1 発掘調査	16
(1) 峯石遺跡	
(2) 泉遺跡	
(3) 浅間大社遺跡	
(4) 丸ヶ谷戸遺跡	
2 試掘・確認調査	20
(1) 丸ヶ谷戸遺跡	
(2) 丸ヶ谷戸遺跡	
(3) 峯石遺跡	
(4) 浅間大社遺跡	
(5) 泉遺跡	
(6) 村山浅間神社遺跡	
(7) 山宮浅間神社遺跡	
3 埋蔵文化財資料整理作業	25

IV	郷土資料館事業	
1	展示室改修工事・展示ケース製作	26
	(1) 展示室改修工事	
	(2) 展示ケース製作	
2	展示	26
	(1) 企画展示	
	(2) 後藤清吉郎展示室	
	(3) その他の展示	
3	資料収集・保存管理	27
	(1) 資料収集	
	(2) 保存管理	
4	古文書等解読刊行事業	28
	(1) 『上井出区有文書』刊行事業	
5	その他	28
	(1) 後藤清吉郎資料館協力	
	(2) 郷土資料館通信の発信	
V	歩く博物館事業	
1	探索会	29
	(1) 市主催探索会	
	(2) 講師派遣	
2	コース策定事業	29
	(1) 芝川地区コースの検討	
VI	その他の事業	
1	問い合わせ対応	30
2	小中学校総合学習への対応	30
3	富士山まちづくり出前講座	30

【資料】

資料 i	「発掘が語る富士山信仰展」配布資料	31
資料 ii	「史跡富士山展」配布資料	36
資料 iii	「後藤清吉郎展示室」配布資料	40
資料 iv	富士宮市歩く博物館探索会「内房地区」配布資料	42
資料 v	富士宮市歩く博物館探索会「長貫・羽鮒地区」配布資料	46
資料 vi	富士宮市内指定文化財一覧	50

富士宮市文化財年報第2号の刊行にあたって

富士山文化課長（市立郷土資料館長） 渡 井 一 信

『富士宮市文化財年報』第2号の刊行にあたり、平成23年度の富士宮市文化財保護行政の現状を振り返ってみることにします。

1 富士山の世界文化遺産登録推進と構成資産候補となった文化財への対応

平成23年度の富士宮市における文化財保護行政については、正念場を迎えた富士山の世界文化遺産登録事業に関連する事業を中心に展開しました。

その中でも特に大きな意味を持つこととなったのが、世界文化遺産登録に向けて国指定史跡となった富士山（史跡「富士山」）に関するものだと思います。

前年度の終盤、平成23年2月7日付け文部科学省告示第11号によって国の指定史跡となった「富士山」ですが、諸手続きの遅れから指定が見送られていた大宮・村山口登拝道、人穴富士講遺跡が平成24年1月24日に追加指定されました。こうして、富士山の世界文化遺産登録への最低条件である各構成資産の国指定文化財化という課題がクリアされたことにより、2月にはユネスコ世界遺産委員会へ推薦書が送られ受理されています。

世界文化遺産暫定リストに登録された平成19年1月から丸5年を費やしての推薦書提出ですので、構成資産候補の数が多く、当初から関わってきた富士宮市にとっても大変意義のある指定であると考えています。

これにより、富士山の世界文化遺産の構成資産候補である富士宮市分としては、史跡指定が「富士山体」のうちの山頂信仰遺跡、大宮・村山口登山道（指定名称は大宮・村山口登拝道）、「富士山本宮浅間大社」（指定地内には特別天然記念物「湧玉池」・重要文化財「本殿」が含まれます）、「山宮浅間神社」「村山浅間神社・大日堂」「人穴富士講遺跡」の5件、それに名勝及び天然記念物の「白糸ノ滝」の6件が構成資産として、世界文化遺産登録をめざすことになったのです。

富士山体については、すでに大正13年に史蹟名勝天然記念物保存法により、山麓の幅広い地域が名勝に仮指定され、昭和11年には、この名勝仮指定範囲に加え富士五湖や白糸ノ滝の周辺一帯を含む範囲が、国立公園法（現在の自然公園法）により国立公園の一部として指定されていました。その後、昭和27年には、新たに文化財保護法によって、御中道以下500mより上部及び一部の登山道などが名勝として（同年特別名勝となる）指定され、同41年には指定区域が拡大されています。

現在、富士山は国の特別名勝と史跡の二つの指定を受ける重要な文化財の位置付けとなり、この法律の下に万全の保護措置を講じることを目的に、静岡県は平成18年10月に「特別名勝富士山」保存管理計画を、同24年1月には「史跡富士山」保存管理計画を策定し、適切な保存と活用が図られているところであります。

「史跡富士山」保存管理計画は、山体以外の世界文化遺産登録の構成資産（文化財）、すなわ

ち「富士山本宮浅間大社」「山宮浅間神社」「村山浅間神社・大日堂」「人穴富士講遺跡」の保護措置も盛り込まれていますが、これとは別に、世界文化遺産登録に向けて周辺に位置する個々の文化財について、平成 24 年に文化庁・環境省・林野庁・富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議の手により「包括的保存管理計画」が策定され、富士山体と構成資産とされた個々の文化財も含めた統一的な保存・管理が行われることになりました。

一方、昭和 11 年 9 月に国の名勝及び天然記念物の指定を受けている「白糸ノ滝」（「白糸の滝」と「音止の滝」が指定地となっている）は、昭和 63 年 3 月に「白糸の滝保存管理計画」を策定し保護措置をとってきましたが、自然環境や社会情勢の変化、富士山世界文化遺産登録の動きなどに対応して、平成 22 年 3 月に第二次保存管理計画を策定し、世界遺産となることにふさわしい新たな保護措置を講じることとしました。

こうして策定された「史跡富士山」保存管理計画、及び「白糸ノ滝」第二次保存管理計画を基本として、当初、富士宮市は構成資産として決定された文化財及び周辺環境の整備を盛り込んだ計画策定を予定していたのですが、「史跡富士山」保存管理計画の完成が大幅に遅れることが、22 年度中に予想されたため、その時点で静岡県から提示されていた「史跡富士山」保存管理計画（案）を参考に、県と綿密に連絡を取り合うことを確認し、富士宮市内関係文化財に限った「史跡富士山整備基本計画」を策定するため、有識者による「史跡富士山」整備基本計画策定委員会を組織しました。

「史跡富士山」整備基本計画策定委員会は、考古学の坂詰秀一先生（立正大学名誉教授）を委員長に、遺跡整備の田中哲雄先生（姫路市日本城郭研究センター名誉館長）、建築学の建部恭宣先生（静岡県文化財保護審議会会長）、考古学の谷川章雄先生（早稲田大学人間科学学術院長）、民俗学の中村羊一郎先生（静岡産業大学特任教授）、地域史の渡井正二先生（富士宮市文化財保護審議会会長）の 6 名に委員をお願いしました。

さらに文化庁市原富士夫調査官を指導・助言者に、その他静岡県・静岡県教育委員会、富士宮市関係部局及び静岡県内関係市町にも協力をいただいて 4 回の委員会を開催し、会議でいただいた指導・助言をもとに、年度末には報告書として刊行いたしました。

また、白糸ノ滝は文化庁から強い指示を受けていた、滝つぼ内にある 2 軒の売店移転を前提とした整備について、平成 22 年度から静岡県と富士宮市の関係部局が検討会議を何回か開催して協議を続けていましたが、23 年末までに関係者から内諾が得られたことから、年度末の 3 月、正式に名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備基本計画策定委員会を組織しました。

これまでも白糸ノ滝は、環境整備について議論を重ねており、平成 21 年 3 月には「平成 20 年度白糸の滝整備基本計画（イメージ図）」を作製して、関係者に協力を呼びかけてきたのですが、「白糸ノ滝」第二次保存管理計画の策定やその後の地震、台風等の自然災害の発生という状況変化が生じたことから、計画を見直し、新たに整備方針等をまとめ、白糸ノ滝整備基本計画を策定しました。



写真 1 「史跡富士山」整備基本計画報告書

名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備基本計画策定委員会は、地質学・地下水の土隆一先生（静岡大学名誉教授）を委員長に、生態・環境の渡邊定元先生（元東京大学教授）、景観工学の天野光一先生（日本大学教授）、景観論・環境計画の池邊このみ先生（千葉大学大学院教授）、地質学の佐野貴司先生（国立科学博物館研究主幹）、土木工学の関文夫先生（日本大学教授）、地域史の渡井正二先生（富士宮市文化財保護審議会会長）の7名に委員をお願いし、それまで静岡県と富士宮市の関係部局が検討してきた内容を専門の立場から審議いただいたものです。



写真 2 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」

2 自然災害と文化財の復旧

平成 23 年はこれまで経験したことの無い、大きな自然災害が文化財に脅威を及ぼした年でもありました。

平成 22 年度文化財年報第 1 号においても報告していますが、平成 23 年 3 月 15 日、富士宮市を震源とする静岡県東部地震が発生し、富士宮市は震度 6 強を記録しました。この地震で国の史跡「富士山」の構成要素である村山浅間神社・大日堂と当時富士宮市指定史跡であった人穴富士講遺跡が被害を受けました。

被害状況としては、村山浅間神社・大日堂では石灯籠が倒壊し、入口から本殿にかけての階段や石垣が広範囲に崩れ、人穴富士講遺跡では、碑塔三十数基が倒れ一部に破損が生じるなど、早急な復旧対策が必要な状況となりました。

こういった状況を受け、平成 23 年 3 月 23 日に文化庁記念物課文化財調査官が構成資産の被害状況調査に訪れ、村山浅間神社・大日堂と人穴富士講遺跡の応急処置について指示されたことにより、翌日から地元の協力を得て、瓦礫の片付けや危険箇所への立入り禁止措置など早急に取り組むべき措置を講じました。

その際、本格的な復旧は、「国宝重要文化財等保存整備費補助事業」の適用を申請しての災害復旧にあたるよう示唆を受けたことから、その後、文化庁に補助事業の適用を申請し、早期復旧を望んだのですが、静岡県東部地震の 4 日前に発生した東日本大震災の被災地との兼ね合いなどもあり、その後の手続きは当初の見込みより遅れ、実際に復旧工事に入ったのは 12 月からで、年度末までずれこみましたが、本質的価値を損なうことのないよう被災前の指定時の状態に復旧しました。

さらに、9 月 21 日台風 15 号が静岡県に上陸し、富士宮市では床上浸水、河川の氾濫、土砂崩れなどの被害が発生しました。台風の最大 1 時間降水量は午後 3 時ころ、白糸で 69.5mm を記録、総降水量も白糸で 421.0mm を観測する大雨となり、白糸の滝は上流の水門の不具合も手伝って、滝見橋をはるかに越える鉄砲水が滝つぼ内を充填し、2 軒の売店のうち滝見茶屋は床

下浸水、千鳥屋は2階建ての2階付近まで浸水するという、想定をはるかに超えるかつてない災害となりました。このとき発生した土石流で、3月15日発生の地震で崩落した滝見茶屋に接する滝つぼ内の石塊はことごとく流されてしまいましたが、地震発生後に緊急避難措置として別地点に移動しておいた世界遺産の構成資産として重要な「食行身禄碑」は被害を免れることができたのは不幸中の幸いでした。

毎回、こうした自然災害の直後には、緊急文化財パトロールを実施して被害状況の把握につとめておりますが、文化財はその性質上万全な保護・保全措置が難しいのですが、富士山の世界文化遺産登録や指定文化財の増加という状況のなか、より一層の日常管理の徹底が求められてくるものと思います。



写真3 増水した白糸の滝



写真4 被災前「食行身禄碑」

3 まとめ

平成19年からはじまった富士山の世界文化遺産登録推進事業も、いよいよ佳境を迎え、平成23年度はユネスコへの推薦書提出に関わる諸業務とイコモスによる現地調査への事前対応に追われた年でしたが、日常業務としての文化財保護行政の時計を止めることは出来ませんので、世界遺産に関わらない分野においても、多くの成果をあげることができました。専門職員の分野である埋蔵文化財、歴史・民俗分野等を中心に、多くの方から史料や情報の提供をいただいたり、調査に協力をいただいたりした結果が、この文化財年報の創刊に繋がってきたものと思います。

今後とも、文化財の保護を図りながら、市内の歴史的、文化的資産の一層の掘り起こしに務め、調査成果の市民の皆様への還元を使命として事業を実施したいと考えています。最後になりますが、市民の皆様と共に富士宮市の豊かな歴史を守り、伝えていくため、今後共ご支援、ご協力下さるようお願いいたします。

I 平成 23 年度の文化財保護事業

1 概要

富士宮市における平成 23 年度の文化財保護関連事業の概要は、下記の通りである。

〈文化財保存管理事業〉

市指定文化財「妙蓮寺の表門及び客殿（含．客殿内重香盤）」に下庫裏・大庫裏・玄関の 3 棟を追加指定し、「妙蓮寺 5 棟 附．客殿内重香盤（表門・客殿・下庫裏・大庫裏・玄関）」に名称を変更した。旧芝川町指定文化財（合併により指定解除）のうち条件の整った「弥陀観音勢至の軸（阿弥陀三尊雲越之来迎図、延命寺所蔵）」の諮問を行った。

国指定特別天然記念物湧玉池について、(特天) 湧玉池天然記念物再生事業として、環境経済部環境森林課が主管課となって池底に堆積した土砂の浚渫事業を実施した。

平成 23 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部地震により史跡富士山の一部文化財（村山浅間神社・人穴富士講遺跡）が被災したため、被害復旧事業を行った。

富士山の世界文化遺産登録推進事業に関連しては、平成 24 年 1 月 24 日付けで人穴富士講遺跡と大宮・村山口登拝道（六合目以上）が史跡富士山に追加指定された。また、富士宮市「史跡富士山」整備基本計画を策定した。

平成 24 年 3 月 2 日付けで、朝霧高原茅場が文化庁の「ふるさと文化財の森」に設定された。

〈埋蔵文化財事業〉

開発行為に伴う発掘調査として、峯石遺跡・泉遺跡・丸ヶ谷戸遺跡の発掘調査を行った。また、浅間大社遺跡内の(特天) 湧玉池天然記念物再生事業に伴い、遺物の採集を行った。試掘・確認調査は 15 箇所を実施し、7 箇所で遺構・遺物を確認した。

また、重点分野雇用創出事業として、旧芝川町出土文化財を中心とした資料整理作業を実施した。

〈郷土資料館事業〉

郷土資料館の改修工事を行い、展示室を拡張した。また、後藤清吉郎資料館を閉館し、新たに郷土資料館内に作品の展示コーナーを設けた。工事終了後には、郷土資料館のリニューアルオープンと国史跡富士山の指定を記念して、「史跡富士山展」を開催した。

展示事業としては、他に富士宮市富士山環境交流プラザにおいて「発掘が語る富士山信仰展」を、芝川公民館内に開設された展示室において「しばかわの歴史—考古資料と今昔写真一展」を開催した。

上井出区有文書（現在郷土資料館寄託）の解読作業を行い、報告書を刊行した。

〈歩く博物館事業〉

芝川地域に仮設定したコースのうち、5 月に内房地区、9 月に羽鮒・長貫地区を会場として探索会を開催した。柚野地区については雨天中止となったため、次年度に探索会を実施することとした。

〈その他の事業〉

小中学校の総合学習（富士山学習）への対応や、富士山まちづくり出前講座の開催等を行った。

2 文化財関連事業一年の歩み

〈平成 23 年〉

- 4 月 18 日 丸ヶ谷戸遺跡確認調査実施（4 月 22 日まで）。
- 4 月 20 日 平成 23 年度第 1 回文化財保護審議会開催。
- 5 月 9 日 田中遺跡確認調査実施（5 月 10 日まで）。
丸ヶ谷戸遺跡確認調査実施（5 月 18 日まで）。
- 5 月 16 日 峯石遺跡確認調査実施（5 月 25 日まで）。
- 5 月 21 日 第 1 回歩く博物館探索会（内房地区）開催。
- 5 月 24 日 富士宮市指定文化財の「妙蓮寺の表門及び客殿」に下庫裏・大庫裏・玄関を追加
指定し、名称を「妙蓮寺 5 棟 附.客殿内重香盤」とする。
- 6 月 16 日 第 1 回史跡富士山整備基本計画策定委員会開催
- 6 月 25 日 「発掘が語る富士山信仰展」開催（富士宮市富士山環境交流プラザ、7 月 10 日まで）。
- 7 月 3 日 念仏講（上稲子池ノ谷集落）調査実施。
- 7 月 8 日 開発行為に伴う試掘調査実施。
- 7 月 28 日 坊地上遺跡確認調査実施（8 月 2 日まで）。
- 8 月 8 日 リニューアル工事のため郷土資料館休館（10 月 14 日まで）。
- 8 月 15・16 日 盆行事調査実施。
- 8 月 17 日 浅間大社遺跡確認調査実施（9 月 12 日まで）。
- 9 月 5 日 泉遺跡確認調査実施（9 月 13 日まで）。
- 9 月 6 日 第 2 回史跡富士山整備基本計画策定委員会開催。
- 9 月 14 日 第 2 回歩く博物館探索会（芝富地区）開催。
平成 23 年度第 2 回文化財保護審議会開催。
- 9 月 21 日 峯石遺跡発掘調査実施（10 月 14 日まで）。
- 9 月 23 日 竹ノ下集落地蔵堂（内房）の祭り調査実施。
- 9 月 29 日 開発行為に伴う試掘調査実施。
- 10 月 3 日 郷土資料館収蔵品くん蒸作業実施（10 月 5 日まで）。
- 10 月 15 日 郷土資料館リニューアルオープン。「史跡富士山展」開催。
- 10 月 17 日 渋沢遺跡確認調査実施（10 月 20 日まで）。
舞台遺跡確認調査実施（10 月 20 日まで）。
- 10 月 31 日 村山浅間神社遺跡確認調査実施（11 月 18 日まで）。
- 11 月 15 日 指定文化財樹木（中央町のカヤ）保護対策事業実施。
- 11 月 21 日 泉遺跡発掘調査実施（平成 24 年 2 月 20 日まで）。
- 12 月 8 日 第 3 回史跡富士山整備基本計画策定委員会開催。
- 12 月 9 日 (史)富士山 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業実施(平成 24 年 3 月 31
日まで)。
- 12 月 12 日 人穴富士講遺跡確認調査実施（12 月 15 日まで）。
山宮浅間神社遺跡確認調査実施（12 月 21 日まで）。
- 12 月 22 日 郷土資料館運営協議会開催。
平成 23 年度第 3 回文化財保護審議会開催。

〈平成 24 年〉

- 1月14・15日 どんど焼き調査実施。
- 1月18日 火伏念仏調査実施。
- 1月23日 浅間大社遺跡発掘調査実施（3月7日まで）。
- 1月24日 人穴富士講遺跡、大宮・村山口登拝道などが「史跡富士山」に追加指定される。
- 1月26日 文化財防火デー。防火訓練等実施。
- 2月6日 第4回史跡富士山整備基本計画策定委員会開催。
- 2月7日 「しばかわの歴史—考古資料と今昔写真—展」開催（芝川公民館）。
- 3月2日 朝霧高原茅場が「ふるさと文化財の森」に設定される。
- 3月5日 指定文化財（狩宿の下馬ザクラ、猪之頭のミツバツツジ）保護対策事業実施。
- 3月12日 丸ヶ谷戸遺跡発掘調査実施（4月23日まで）。
- 3月14日 大室遺跡確認調査実施（3月21日まで）。
火伏念仏調査実施。
- 3月30日 『上井出区有文書』刊行。
- 3月 『富士宮市「史跡富士山」整備基本計画（富士宮市内関係文化財）』策定報告書刊行。



写真 5 人穴富士講遺跡



写真 6 大宮・村山口登拝道

II 文化財保存管理事業

1 文化財保護審議会

第1回

日時：平成23年4月20日（水）

内容：「妙蓮寺の下庫裏・大庫裏・玄関」の文化財追加指定と、文化財の名称変更について
諮問・答申。旧芝川町指定文化財（彫刻6躯）の調査報告。

第2回

日時：平成23年9月14日（水）

内容：延命寺の「弥陀観音勢至の軸」の文化財指定について諮問。

第3回

日時：平成23年12月22日（木）

内容：「妙蓮寺の大庫裏」屋根葺き替え工事及び延命寺の「弥陀観音勢至の軸」の検分。

2 指定文化財保存管理事業

(1) 富士山本宮浅間大社防災施設保守点検補助事業

国指定重要文化財「富士山本宮浅間神社本殿」、及び県指定有形文化財「富士山本宮浅間大社社殿」の自動火災報知設備・消火設備（加圧式動力消防ポンプ）・避雷設備の保守点検等の文化財管理業務に対して、市要綱に基づき補助金を交付した。



写真7 浅間大社消火設備の点検

(2) （特天）湧玉池天然記念物再生事業

湧玉池には周辺の河川等から土砂が流入し堆積していたため、本来の状態に復元するための再生事業を実施した。事業は環境経済部環境森林課が主管課となり、平成23年11月2日から平成24年3月27日にかけて国庫補助事業として実施した。池に作業員数名が入り手作業により大型の石を除去した後、堆積土砂を大型吸引車で吸入した。

湧玉池は浅間大社遺跡包蔵地内のため、除去された石及び土砂（約171 m³）については埋蔵文化財担当職員が調査した後、市の清掃センターに搬出・処理した。



写真8 湧玉池凌濁作業

(3) 史跡大鹿窪遺跡管理事業

平成 20 年 3 月 28 日付けで国指定された史跡大鹿窪遺跡は、埋め戻しをして保存している。指定地内約 6,600 m²の管理は、年 3 回の草刈を実施した。

(4) 富士宮市「史跡富士山」整備基本計画策定

平成 23 年 2 月 7 日付けで国指定された史跡富士山について、保護・保存・活用をはかるため、専門家、学識経験者による「史跡富士山」整備基本計画策定委員会を設置し、富士宮市「史跡富士山」整備基本計画を策定した。

(5) (史) 富士山 史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備事業

平成 23 年 3 月 15 日に静岡県東部を震源とするマグニチュード 6.4 の地震が発生し、富士宮市内においても最大震度 6 強を記録した。史跡富士山に被害が発生し、村山浅間神社では石垣が崩落し、石灯籠が倒壊した。人穴富士講遺跡でも碑塔が倒壊した。災害復旧については、国庫補助事業として平成 23 年 12 月 9 日から平成 24 年 3 月 31 日にかけて実施し、本質的価値を損なうことのないよう被災前の指定時の状態に復旧した。



写真 9 村山浅間神社の地震被害



写真 10 村山浅間神社の復旧後



写真 11 人穴富士講遺跡の地震被害

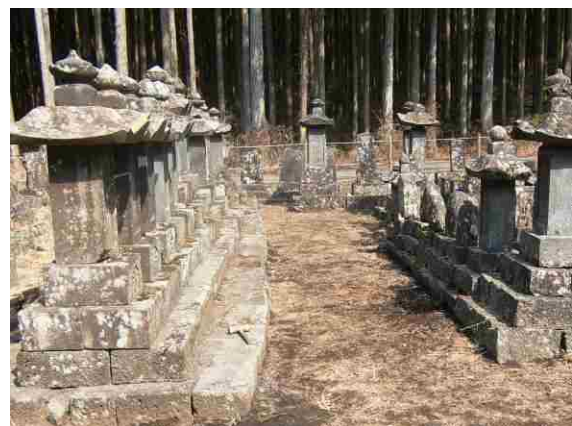


写真 12 人穴富士講遺跡の復旧後

(6) 指定文化財（樹木）保護対策事業

富士宮市内に存在する指定天然記念物（樹木）は、国指定 1 件、県指定 8 件、市指定 2 件の 11 件である。今年度は平成 24 年 3 月 5 日から国指定「狩宿の下馬ザクラ」及び県指定「猪之頭ミツバツツジ」の施肥・消毒等を行った。また、市指定「中央町のカヤ」の枝が道路界を越えて隣接地へ伸びていたため、この処理を中心とした全体的な剪定を、平成 23 年 11 月 15 日から実施した。



写真 13 中央町のカヤ剪定前



写真 14 中央町のカヤ剪定後

(7) 文化財防火デー

文化財防火デーは、国民全体の重要な宝である文化財を火災や震災などの災害から守るため、昭和 30 年に定められたものである。昭和 24 年 1 月 26 日に火災で法隆寺金堂の貴重な壁画が焼損したことから、毎年 1 月 26 日を中心に全国で文化財防火運動が実施されており、文化財愛護意識を高めている。

富士宮市内では、浅間大社と大石寺で防災訓練を実施した。また、消防本部による消防設備の点検及び東京電力（株）富士支社の協力を得て、建造物の漏電検査を行った。

表 1 防災訓練・漏電検査等実施文化財一覧

	建造物名	防災訓練	漏電検査等	備考
1	富士山本宮浅間大社本殿・社殿	1 月 26 日(木)	1 月 25 日(水)	
2	大石寺五重塔	1 月 26 日(木)		御影堂解体修理中
3	妙蓮寺(客殿)		1 月 23 日(月)	
4	北山本門寺(美術品収蔵庫)		1 月 25 日(水)	
5	西山本門寺		1 月 25 日(水)	



写真 15 北山本門寺の漏電検査



写真 16 大石寺の消防訓練

3 文化財指定事業

(1) 妙蓮寺の下庫裏・大庫裏・玄関の追加指定

富士宮市教育委員会は、富士宮市文化財保護審議会の答申（平成 23 年 4 月 20 日付け）に基づき、平成 23 年 5 月 24 日付けで、富士宮市指定文化財の「妙蓮寺の表門及び客殿（含．客殿内重香盤）」（昭和 60 年 3 月 11 日指定）に、下庫裏・大庫裏・玄関を追加指定し、名称を「妙蓮寺 5 棟 附．客殿内重香盤（表門・客殿・下庫裏・大庫裏・玄関）」と改めた。

- 1 名 称 妙蓮寺 5 棟 附．客殿内重香盤（表門・客殿・下庫裏・大庫裏・玄関）
- 2 所 在 地 富士宮市下条 688 番地
- 3 指定理由 江戸時代中期から後期にかけての、この地方における寺院建築の代表的な遺構でもあり、また、伽藍を構成する建物群がまとまって残存している好例であるため。



写真 17 妙蓮寺大庫裏



写真 18 妙蓮寺下庫裏

(2) 国史跡「富士山」の追加指定

平成 24 年 1 月 24 日付けで国史跡「富士山」の追加指定が行われた。富士宮市内では、人穴富士講遺跡、大宮・村山口登拝道（六合目以上）、富士山本宮浅間大社境内地の一部が追加指定された。また、これに伴い市指定第 33 号史跡「人穴富士講遺跡」（平成 11 年 6 月 23 日指定）の指定は、富士宮市文化財保護条例第 5 条第 3 項に従い、解除された。

- 1 指定年月日 2011.2.7（平成 23.2.7）（追加指定年月日：2012.1.24（平成 24.1.24））
- 2 指 定 基 準 三．社寺の跡又は旧境内その他祭祀信仰に関する遺跡
- 3 所 在 地 山梨県富士吉田市、南都留郡富士河口湖町・鳴沢村、静岡県富士宮市、裾野市、駿東郡小山町
- 4 解 説

大宮・村山口登拝道： 富士山南西麓の富士山本宮浅間大社、村山を経て山頂に至る登拝道。江戸時代は「村山三坊」の管理下にあり、富士川以西の地域を中心に登山者を集めた。明治時代になると村山を経由しない新道が開削され、現在、六合目以下の詳しい道筋は分かっていない。

人穴富士講遺跡： 人穴は富士山の溶岩流によってできた溶岩洞穴。『吾妻鏡』には「浅間大菩薩の御在所」とある。江戸時代には、長谷川角行が修行を行った場所とされ、富士講員の聖地とされた。現在、人穴周辺には富士講員の建立した 200 基以上の碑塔が残されている。

(3) 「ふるさと文化財の森・朝霧高原茅場」の設定

平成 24 年 3 月 2 日付けで、朝霧高原茅場が文化庁の「ふるさと文化財の森」に設定された。「ふるさと文化財の森」は平成 24 年 3 月 2 日現在、全国で 45 か所が設定されている。

ア 「ふるさと文化財の森」事業の目的(「ふるさと文化財の森システム推進事業実施要綱」より)

文化財建造物の保存のために必要な原材料のうち山野から供給される木材(特に大径材、高品位材等、市場からの調達が困難なもの)、檜皮、茅、漆等の植物性資材を安定的に確保するとともに、当該資材に関する技能者を育成し、またこれらの資材や技能の確保等に関する普及啓発活動を行う。

イ 朝霧高原茅場の概要(申請書より)

- 1 名 称：朝霧高原茅場
- 2 資材の種類：ススキ
- 3 所在の場所：富士宮市根原字宝山及び字富田
- 4 所 有 者：富士宮市根原区財産区
- 5 管 理 者：富士宮市根原区財産区管理者 富士宮市長
- 6 面 積：約 152ha

当該地は、国道 139 号により東側(富士山側)と西側(毛無山側)の二箇所に区分され、東側の面積は約 52ha、西側は約 100ha(但し、大根畑として茅場の一部を循環利用している土地及びワイン用ぶどうの栽培地を除く)

7 火入れの状況

当該地の東側区域については富士宮市(環境森林課)が、西側区域については根原区財産区が主催して、毎年一度 4 月に野焼きを実施している。

8 出荷実績

平成 21 年度(平成 21 年 12 月から平成 22 年 3 月まで)から試験出荷を開始し、21 年度は 500 束、22 年度は 1,200 束出荷した。



写真 19 朝霧高原茅場



図 1 朝霧高原茅場位置図 S=1/50000

4 未指定文化財保存管理事業

(1) 年中行事調査事業

ア 念仏講調査

日 時：平成 23 年 7 月 3 日（日）

場 所：富士宮市上稲子（池ノ谷集落）

調査者：富士山文化課課長、学芸員 1 名

内 容：池ノ谷地区で行われている「念仏講」を調査した。富士宮市は日蓮宗系の割合が高く、池ノ谷集落も日蓮宗竹養山正法寺（市内上柚野）の檀家である。しかし、市内内野では現在も念仏行事（富士宮市指定無形民俗文化財「火伏念仏」）が行われており、他にもかつては念仏講が行われていた形跡が認められる集落がある。

池ノ谷集落の念仏講は、集落の高台にある観音堂で行われ、原則集落住民全員が参加するが、旦那寺（正法寺）は関わらない。太鼓や鉦を叩きながら念仏を唱えるものだが、かつて伝承が途切れたため、現在は内野に習いに行き覚えたやり方で行っているという。



写真 20 観音堂内

イ 盆行事調査

日 時：平成 23 年 8 月 15・16 日（月・火）

場 所：富士宮市内（富士川流域集落・芝川流域集落）
富士市木島

調査者：富士山文化課学芸員 3 名

内 容：昨年度に引き続き、富士川流域・芝川流域で行われているカワガンジイ・ナゲタイマツ・ヒャクハツタイ等特色ある盆行事について調査を行った。



写真 21 ナゲタイマツの準備（富士市木島）



写真 22 ナゲタイマツ（富士市木島）

ウ 竹ノ下集落地蔵堂の祭りの調査

日 時：平成 23 年 9 月 23 日（金）

場 所：市内内房（竹ノ下集落）地蔵堂

調査者：富士山文化課課長、学芸員 1 名

内 容： 竹ノ下集落で行われている地蔵堂の祭りを調査した。場所は稲瀬川沿いの高台にある観音堂、参加者は集落各戸住民、日時は現在毎年 9 月 23 日前後の夜に行っているという。この祭りは、仏像を祀り、鉦を叩きながら延命十句観音経や「題目」（地蔵真言か）を唱えるものである。



写真 23 竹ノ下集落地蔵堂の祭り

また、堂内の地蔵菩薩立像には百万遍の数珠がかけられており、かつて集落で念仏行事を行っていた際に使用していたものだという。

エ どんど焼き調査

日 時：平成 24 年 1 月 14 日（土）・15 日（日）

場 所：富士宮市内各所

調査者：富士山文化課学芸員 3 名

内 容： どんど焼きの習俗・内容、ヤナギの習俗等について調査を行った。今年度は主に芝川地区の各集落を重点的に調査した。

富士宮市内ではどんど焼きは道祖神の祭りとされており、調査結果は平成 24 年度に刊行予定の富士宮市道祖神調査報告書で報告する予定である。

以下、今年度の調査結果の概要を記す。



写真 24 どんど焼きのヤマ（瓜島集落）



写真 25 燃えるヤマ（瓜島集落）

○どんど焼きの小屋

かつてはどんど焼きに合わせて子供達が集落毎に木材や竹で小屋を作り、中に入って遊んだという。また、他集落の小屋をつぶしたり材料を盗んだりして競い合ったという（三沢・鳥並集落他）。

○どんど焼きの団子

市内では、一般的に先がミツマタになった木「サンボンヤリ（ミツマタ）」に、米粉を湯でこねて茹でたり蒸したりした大振り（成人男性の握り拳大）の団子を3つ指す。

しかし、内房地区瓜島集落では、竹竿の先に四角く切った餅3～4個を指す。集落では竹竿・角餅を用いる理由は分からないという。なお、瓜島集落は市内最南端の集落である。



写真 26 団子を焼く（三沢集落）

○白鳥山とどんど焼きの禁忌

白鳥山周辺の集落には、どんど焼きを禁忌する伝承が伝わっている。これらは、白鳥山を舞台として、白坊主や大きな白い鳥、テングマツ（天狗松）に関連してどんど焼きの禁忌を語る。

また、どんど焼きの禁忌を解除する伝承を持つ集落もある。どんど焼きを行っている上長貫集落には、次のような伝承がある。どんど焼きを行ってはいけないとされていたが、ある時どんど焼きをやったところ、白鳥山に白坊主が出た。しかし村人が白鳥山に確かめに行ったところ、白坊主だと思っていた物が実は白い蛇の抜け殻だったので、以後はどんど焼きをやるようになったという。

これら伝承は、白鳥山に置かれたのろし台に関するとの指摘がある。戦国時代、白鳥山には武田氏がのろし台を置いたとされ、のろしと見間違える可能性のあるどんど焼きを禁止したのではないかとするものである。

オ 火伏念仏調査

日 時：平成24年1月18日（水）・3月14日（水）

場 所：富士宮市内野

調査者：富士山文化課学芸員2名

内 容： 富士宮市内野で毎年1月18日と3月14日に行われる「火伏念仏」（富士宮市指定民俗文化財）の調査を行った。火伏念仏とは、新築・改築の家を頭屋（当屋）として、集落住民により構成される「六斎念仏衆」が念仏を唱え、火伏を祈願するものである。



写真 27 火伏念仏（足形集落）

Ⅲ 埋蔵文化財事業

1 発掘調査

開発行為に伴う埋蔵文化財の発掘調査を以下のとおり行った。

(1) 峯石遺跡

所在地：富士宮市大岩字峯石 910

調査期間：平成 23 年 9 月 21 日から
10 月 14 日まで

調査面積：約 200 m²

調査目的：宅地造成工事に伴う記録保存

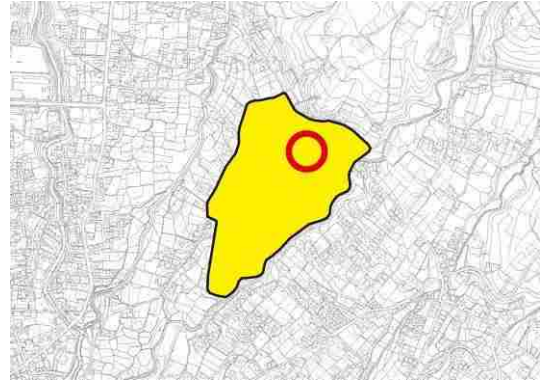


図 2 調査位置図 S = 1/25000

《遺跡の位置》

峯石遺跡は富士山から放射状に広がる丘陵上にあり、富士山の放射谷に沿って南下する弓沢川の左岸に認められる古富士火山の泥流を基盤としており、南西方向に緩やかに傾斜する丘陵上を占有している。古くから遺跡が密集する地域としてよく知られている。

《主な遺構・遺物》

古墳時代 遺構：竪穴住居跡

遺物：土師器

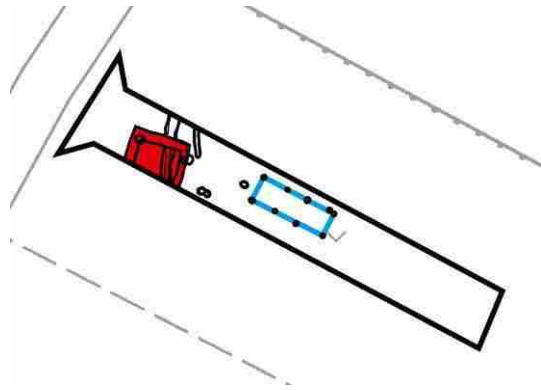


図 3 遺構図

《調査の成果》

遺構は対象地の西側から竪穴住居跡 1 基が検出されている。遺物は竪穴住居跡に伴う古墳時代前期の土師器が確認されている。調査地の北西側で平成 6 年に行われた発掘調査では、縄文時代前期と奈良時代の遺構が確認されている。今回は古墳時代前期の遺構が検出されたことになる。



写真 28 住居跡



写真 29 出土遺物

(2) 泉遺跡

所在地：富士宮市泉町 626-1

調査期間：平成 23 年 11 月 21 日から
平成 24 年 2 月 20 日まで

調査面積：約 1,165 m²

調査目的：賃貸住宅建築工事に伴う記録
保存

《遺跡の位置》

泉遺跡は富士山から放射状に広がる丘陵上の末端、縁辺に沿って南下する潤井川が大きく半円を描くように迂回するその半円形に残された河岸段丘に位置する。

《主な遺構・遺物》

弥生時代後期～古墳時代初頭

遺構：竪穴住居跡・溝状遺構

遺物：弥生土器・土師器・石器

古墳時代後期～奈良時代

遺構：竪穴住居跡

遺物：土師器・須恵器・金属製品

《調査の成果》

弥生時代後期初頭の環濠と集落跡、古墳時代初頭の集落跡、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落跡の 3 時期の集落跡に伴う遺構が出土した。

第 1 期の弥生時代初頭では環濠とその内側から約 50 軒の小判型を呈する住居跡が重複して検出された。

第 2 期の古墳時代初頭の住居跡からは、伊勢湾岸を由来とする S 字状口縁台付甕形土器などが出土し、この時期の伊勢湾岸地域との交流を示すものとなった。

第 3 期では、古墳時代後期終末から奈良時代にかけての、北側に竈が構築される住居跡が検出された。

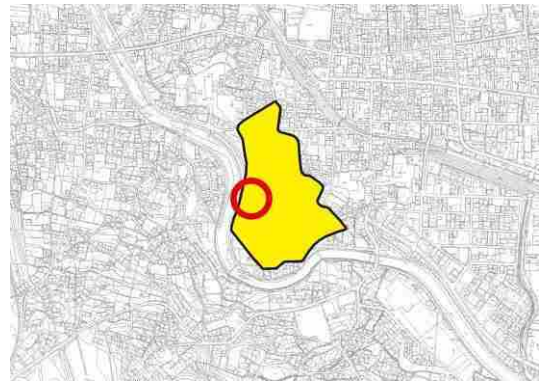


図 4 調査位置図 S = 1/25000

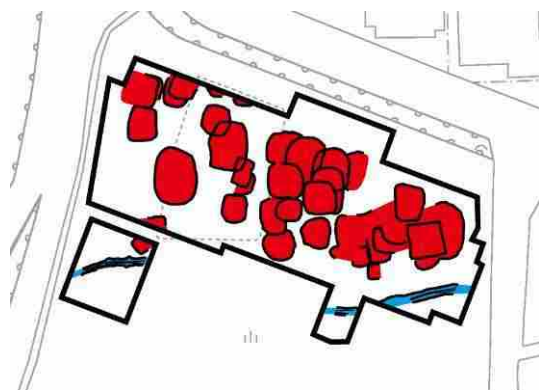


図 5 遺構図



写真 30 集落跡



写真 31 出土遺物

(3) 浅間大社遺跡

所在地：富士宮市宮町 1-1

調査期間：平成 24 年 1 月 23 日から
3 月 7 日まで

調査面積：約 2,500 m²

調査目的：湧玉池再生事業に伴う立会調査

《遺跡の位置》

浅間大社遺跡は富士山を神体とする浅間大社の境内地を中心とする遺跡で、古代末から近現代にわたる神社に関する遺構のほか、古墳時代の遺構も検出されている複合遺跡である。富士山の溶岩流の末端に位置し、溶岩の隙間などから湧き水が噴出する湧玉池があり、古来、この湧水を利用した生活が行われている。

《調査の概要》

今回の調査は、湧玉池の浚渫に伴うもので、浚渫された土砂約 171 m³を選別し、遺物の採取を行った。

《主な遺物》

古墳時代	土師器・須恵器
中世	輸入陶磁器・国産陶磁器・かわらけ・銭貨
近世	輸入陶磁器・国産陶磁器・土製品・金属製品・銭貨

《調査の成果》

古墳時代から現代までの遺物が出土した。中世のかわらけの出土が多く、近世の陶磁器も多く出土した。湧玉池は富士山信仰において水垢離を行ったとされている、江戸時代の遺物も多かった。

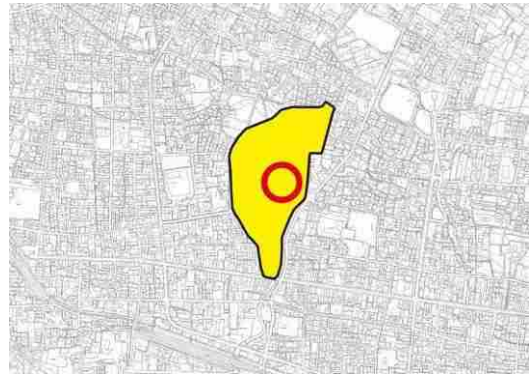


図 6 調査位置図 S = 1/25000



写真 32 土砂搬入



写真 33 調査風景



写真 34 出土遺物

(4) 丸ヶ谷戸遺跡

所在地：富士宮市大岩字丸谷戸 723-1
ほか

調査期間：平成 24 年 3 月 12 日から
4 月 23 日まで

調査面積：約 450 m²

調査目的：宅地造成工事に伴う記録保存

《遺跡の位置》

丸ヶ谷戸遺跡は富士山から放射状に広がる丘陵上にあり、富士山の放射谷に沿って南下する弓沢川の左岸に認められる古富士火山の泥流を基盤としており、南西方向に緩やかに傾斜する丘陵上を占有している。古くから遺跡が密集する地域としてよく知られている。

《主な遺構・遺物》

古墳時代 遺構：方形周溝墓・竪穴住居跡

遺物：土師器・石器

《調査の成果》

遺構は対象地の中央及び北側から方形周溝墓が 2 基検出されている。遺物は方形周溝墓に伴う古墳時代前期の土師器が確認されている。調査地の南西側で平成元年に行われた発掘調査では、前方後方墳が検出されている。

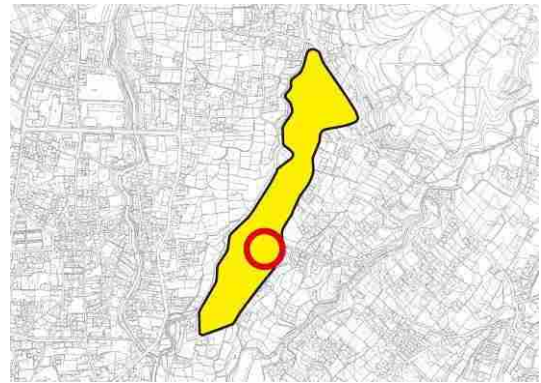


図 7 調査位置図 S = 1/25000

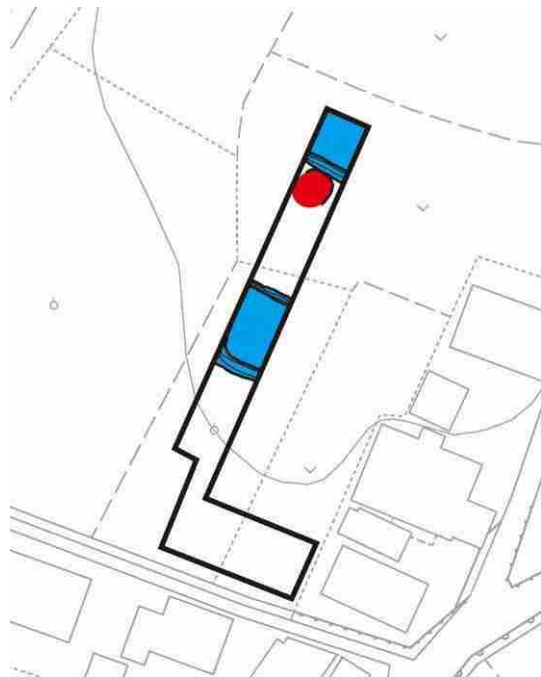


図 8 遺構図



写真 35 方形周溝墓



写真 36 出土遺物

2. 試掘・確認調査

開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘・確認調査を以下のとおり行った。

表2 埋蔵文化財の試掘・確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	主な遺構	主な遺物
1	丸ヶ谷戸遺跡	大岩 723-1 ほか	H23.4.18 - 22	58 m ²	古墳	周溝墓	土師器
2	田中遺跡	田中町 846-1 ほか	H23.5.9 - 10	52.5 m ²	なし	なし	なし
3	丸ヶ谷戸遺跡	大岩 745-1 ほか	H23.5.9 - 18	102 m ²	古墳	なし	土師器
4	峯石遺跡	大岩 910	H23.5.16 - 25	70 m ²	古墳	住居跡	土師器
5	(試掘調査)	内房 1669-2 ほか	H23.7.8	16.5 m ²	なし	なし	なし
6	坊地上遺跡	野中 1002-1 ほか	H23.7.28 - 8.2	15.2 m ²	なし	なし	なし
7	浅間大社遺跡	宮町 1403	H23.8.17 - 9.12	18.6 m ²	中世	造成面	かわらけ
8	泉遺跡	泉町 626-1	H23.9.5 - 13	55 m ²	弥生古墳	住居跡	土師器
9	(試掘調査)	内房 1669-2 ほか	H23.9.29	11.25 m ²	なし	なし	なし
10	渋沢遺跡	淀師 1652-2 ほか	H23.10.17 - 20	4 m ²	なし	なし	なし
11	舞台遺跡	青木 182-2 ほか	H23.10.17 - 20	4 m ²	なし	なし	なし
12	村山浅間神社遺跡	村山 1242-3 ほか	H23.10.31 - 11.18	52 m ²	近世	道路跡	陶磁器
13	人穴富士講遺跡	人穴 206-1	H23.12.12 - 15	18 m ²	なし	なし	なし
14	山宮浅間神社遺跡	山宮 719-4 ほか	H23.12.12 - 21	37.5 m ²	中世	なし	銭貨
15	大室遺跡	小泉 1441-3 ほか	H24.3.14 - 21	37.5 m ²	なし	なし	なし

遺構・遺物が確認された調査は、以下の7件であった。

(1) 丸ヶ谷戸遺跡 (No.1)

《遺跡の概要》

縄文時代から中世の遺跡で、古墳時代前期の前方後方墳が出土している。

《調査の概要》

宅地造成工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチを5本設定して行った。

《調査の成果》

古墳時代前期と考えられる土師器を伴う、周溝墓が検出された。

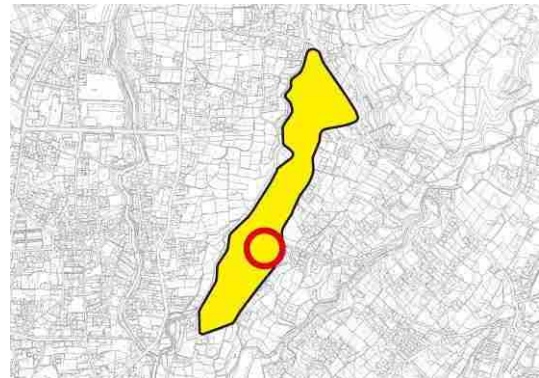


図9 調査位置図 S = 1/25000

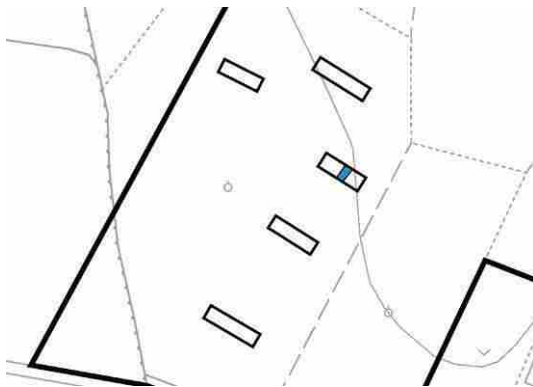


図10 遺構図



写真37 出土遺物

(2) 丸ヶ谷戸遺跡 (No.3)

《遺跡の概要》

縄文時代から中世の遺跡で、古墳時代前期の前方後方墳が出土している。

《調査の概要》

集合住宅建築工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチを7本設定して行った。

《調査の成果》

近現代と考えられる溝から、古墳時代の土師器が出土した。

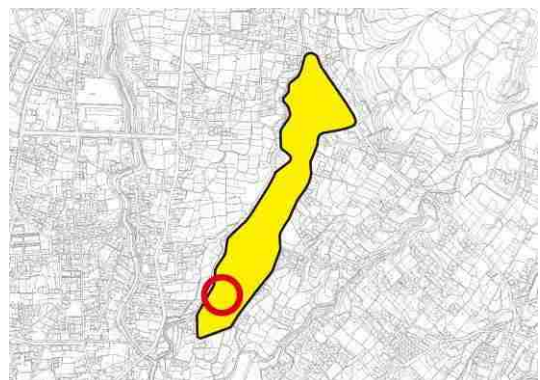


図11 調査位置図 S = 1/25000

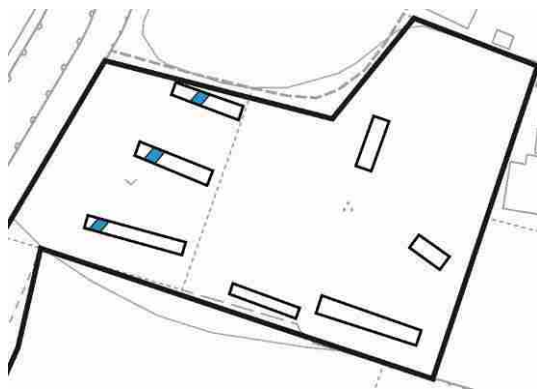


図 12 遺構図



写真 38 出土遺物

(3) 峯石遺跡 (No.4)

《遺跡の概要》

縄文時代から奈良時代の住居跡が出土している。

《調査の概要》

宅地造成工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチを 8 本設定して行った。

《調査の成果》

弥生時代後期以降の住居跡が検出された。

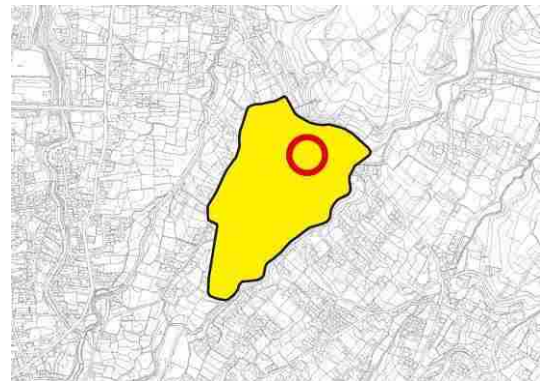


図 13 調査位置図 S = 1/25000

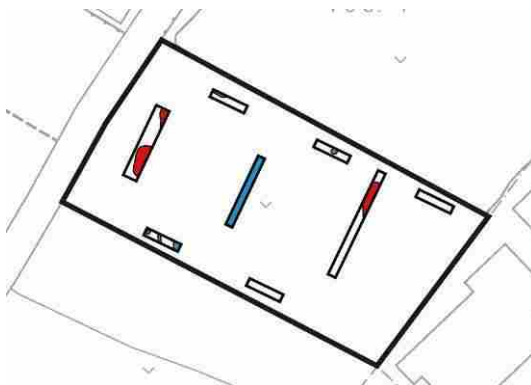


図 14 遺構図



写真 39 出土遺物

(4) 浅間大社遺跡 (No.7)

《遺跡の概要》

浅間大社に関する遺跡が中心であるが、縄文時代から近世まで幅広く遺物が確認されている。

《調査の概要》

参道改修工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチを9本設定して行った。

《調査の成果》

古代末から近現代の遺物が検出され、かわらけを含む整地層が検出された。

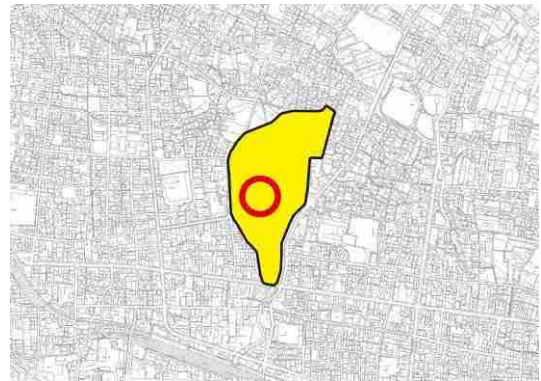


図 15 調査位置図 S = 1/25000

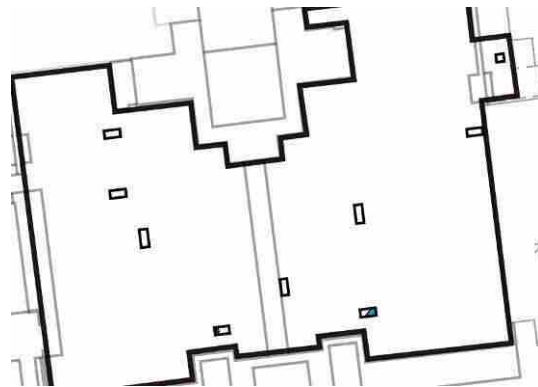


図 16 遺構図



写真 40 出土遺物

(5) 泉遺跡 (No.8)

《遺跡の概要》

縄文時代から近世の遺跡で、弥生時代から古墳時代の住居跡が出土している。

《調査の概要》

賃貸住宅建築工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチを6本設定して行った。

《調査の成果》

弥生時代から古墳時代の住居跡が検出された。

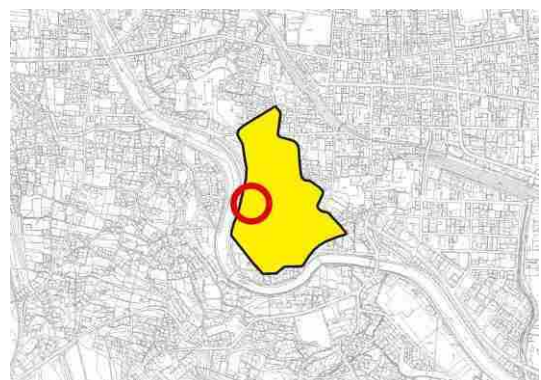


図 17 調査位置図 S = 1/25000

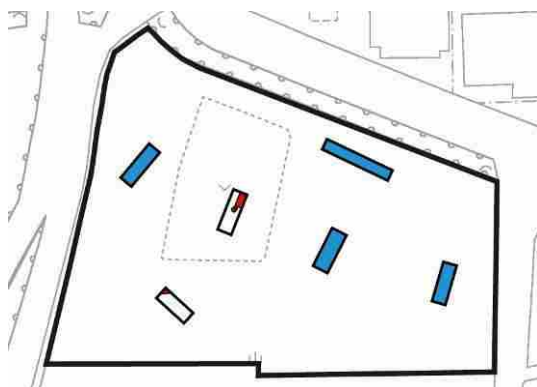


図 18 遺構図



写真 41 出土遺物

(6) 村山浅間神社遺跡 (No.12)

《遺跡の概要》

縄文時代から近現代の遺跡で、富士山信仰に関係する遺構のほか、平安時代の住居跡が出土している。

《調査の概要》

トイレ・駐車場設置工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチを7本設定して行った。

《調査の成果》

近世の登山道と推定される遺構が検出された。

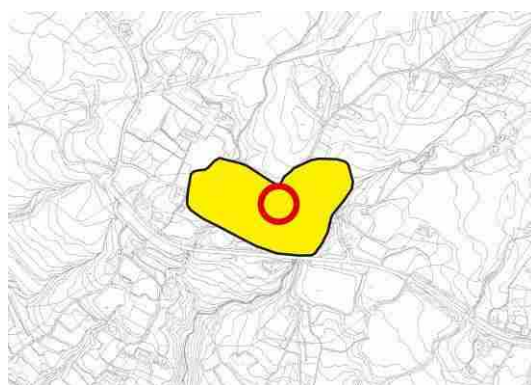


図 19 調査位置図 S = 1/25000



写真 42 出土遺物



図 20 遺構図

(7) 山宮浅間神社遺跡 (No.14)

《遺跡の概要》

平安時代から近現代の遺跡で、富士山信仰に関する遺構のほか、中世のかわらけが出土している。

《調査の概要》

トイレ・駐車場設置工事に伴う事前の確認調査で、対象地にトレンチを7本設定して行った。

《調査の成果》

近現代の造成跡と、須恵器・かわらけ・銭貨が出土した。

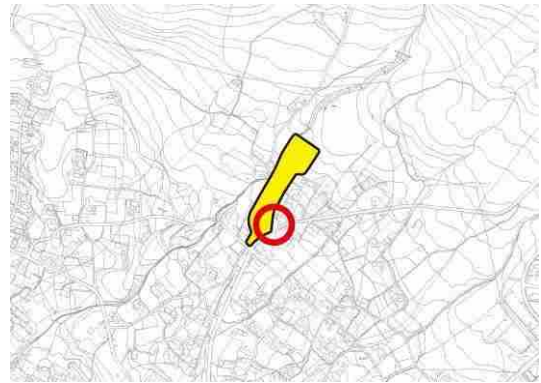


図 21 調査位置図 S = 1/25000

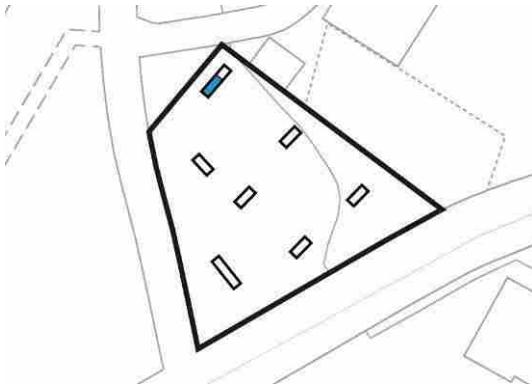


図 22 遺構図



写真 43 出土遺物

3. 埋蔵文化財資料整理作業

重点分野雇用創出事業として、旧芝川町出土文化財を中心とした資料整理作業を実施した。



写真 44 土器の復元



写真 45 資料の展示

IV 郷土資料館事業

1 展示室改修工事・展示ケース製作

(1) 展示室改修工事

富士宮市民文化会館内一階に併設されている郷土資料館展示室の改修工事を行った。

休館期間：平成 23 年 8 月 8 日（月）から 10 月 14 日（金）まで

改修箇所：展示室拡張、スポットライトの LED 電球交換など

(2) 展示ケース製作

郷土資料館で使用する展示ケースを製作した。

台 数：3 台

製作業者：株式会社金指商会

2 展示

(1) 企画展示

ア 「発掘が語る富士山信仰展」

富士山信仰の理解を深め、富士山世界文化遺産登録推進を図るため、富士山信仰に係る遺跡の発掘調査などで得られた資料（陶磁器等）を展示した。

期 間：平成 23 年 6 月 25 日（土）から 7 月 10 日（日）まで

場 所：富士宮市富士山環境交流プラザ 1 階展示室（富士宮市栗倉 1618-9）

内 容：浅間大社遺跡、山宮浅間神社遺跡、村山浅間神社遺跡、人穴富士講遺跡、富士大宮司館跡（大宮城跡）各遺跡出土の陶磁器等の展示。写真パネルの展示。絹本著色富士曼荼羅図（レプリカ）の展示。経巻（三島ヶ岳経塚出土）・懸仏の展示（浅間大社より借用）。

協 力：富士山本宮浅間大社

静岡県教育委員会

見学者：701 人



写真 46・47 「発掘が語る富士山信仰展」展示風景

イ 「史跡富士山展」

平成 23 年 2 月の史跡富士山の指定、及び展示室リニューアルを記念して展示を行った。

期 間：平成 23 年 10 月 15 日（土）から平成 24 年 4 月末日まで

場 所：富士宮市立郷土資料館

内 容：史跡富士山（富士山本宮浅間大社、山宮浅間神社、村山浅間神社、人穴富士講遺跡、大宮・村山口登山道、山頂信仰遺跡など）の解説

(2) 後藤清吉郎展示室

郷土資料館展示室のリニューアルに伴い、市内豊町にあった後藤清吉郎資料館を移転し、郷土資料館内に後藤清吉郎展示室を開設した。なお、後藤清吉郎資料館は、平成 23 年 9 月末日にて閉館した。

開設日：平成 23 年 10 月 15 日（土）

内 容：和紙工芸家後藤清吉郎氏の紹介、型染絵・金唐和紙などの作品、紙漉き道具、型棒、清吉郎著書などの展示。



写真 48 後藤清吉郎展示室展示風景

(3) その他の展示

市立芝川公民館展示コーナーで芝川地区に関する展示を行った。

ア 「しばかわの歴史—考古資料と今昔写真—展」

期 間：平成 24 年 2 月 7 日（土）から

平成 24 年 5 月末日まで

場 所：市立芝川公民館（市内長貫 1270-1）

内 容：芝川町の変遷、芝川地域今昔写真、芝川地域航空写真、芝川地域で発掘された遺跡（大鹿窪遺跡・小塚遺跡・南原遺跡）の紹介、芝川地域の歩く博物館（仮設）5 コースの紹介、芝川地域の道祖神の紹介



写真 49 「しばかわの歴史—考古資料と今昔写真—展」展示風景

3 資料収集・保存管理

(1) 資料収集

ア 郷土資料収集

平成 24 年 1 月 民俗資料 1 点 現地採集

平成 24 年 2 月 民俗資料 6 点 個人寄贈

平成 24 年 3 月 養蚕関係資料 19 点 個人寄贈

(2) 保存管理

ア 収蔵品くん蒸事業

日 時：平成 23 年 10 月 3 日（月）から 10 月 5 日（水）まで

場 所：移動燻蒸車 12 m³

豊町収蔵庫（富士宮市豊町 18-8） 約 800 m³

柚野収蔵庫（富士宮市下柚野 361-1） 約 300 m³

内房収蔵庫（富士宮市内房 3903-1） 約 1,000 m³

内 容：移動燻蒸車を使用して薬品名エキヒューム S による殺虫・殺カビ燻蒸を実施した。収蔵庫内は薬品名ブンガノンによる殺虫燻蒸を実施した。

施工業者：中部資材株式会社静岡営業所

4 古文書等解説刊行事業

(1) 『上井出区有文書』刊行事業

上井出区有文書（現在郷土資料館寄託資料）の報告書を刊行した。本資料は、静岡・山梨両県の国境論争や、富士山麓・朝霧高原の入会地論争に関わるものを含み、当時の富士宮市北部地域の様子について知ることのできる貴重なものである。

編 集：富士宮市教育委員会

発 行：平成 24 年 3 月

頁 数：本文 85 頁・カラー口絵 4 頁

内 容：文書目録・翻刻（抜粋）・論考「駿甲国境争論」など

頒布価格：1 冊 1,000 円（富士宮市教育委員会富士山文化課で販売）



写真 50 駿甲国境相論裁許絵図

5 その他

(1) 後藤清吉郎資料館協力

後藤清吉郎資料館運営サポーターの会世話人会出席。

なお、後藤清吉郎資料館運営サポーターの会は、後藤清吉郎資料館の閉館に伴い、平成 23 年 10 月 6 日（木）の総会をもって解散した。

(2) 郷土資料館通信の発信

郷土資料館学芸員が、郷土資料館の展示会や市内の遺跡・史跡・文化財などについて解説した原稿を、郷土資料館ホームページに掲載した。

V 歩く博物館事業

1 探索会

(1) 市主催探索会

第1回

日 時：平成 23 年 5 月 21 日（土）

場 所：内房地区

仮称「内房の里を訪ねるコース」

講 師：澤田政彦（歩く博物館解説員）

参加者：35 名

第2回

日 時：平成 23 年 9 月 14 日（水）

場 所：芝富地区

仮称「羽鮒・長貫を歩くコース」

講 師：芦沢幹雄（歩く博物館解説員）

参加者：36 名

第3回（雨天中止）

日 時：平成 23 年 11 月 19 日（土）（雨天中止）

平成 24 年 2 月 23 日（木）（雨天中止）

場 所：柚野地区

仮称「柚野の里を歩くコース」



写真 51 探索会（内房地区）



写真 52 おでこ道祖神（芝富地区）

(2) 講師派遣

市民グループ等の主催する探索会に郷土資料館学芸員を講師として派遣した。

平成 23 年 10 月 18 日（火） 市立第一中学校家庭教育学級主催探索会

平成 23 年 11 月 12 日（土） 市民グループ主催探索会

2 コース策定事業

(1) 芝川地区コース検討

前年度策定したコース案に基づき、探索会を実施した。今年度実施できなかった柚野地区については平成 24 年度に改めて実施する予定である。芝川地区のコースについては、平成 24 年度に修正を加え、平成 25 年度から 27 年度にかけて現地の案内板とガイドブック・パンフレットを作成する予定である。

VI その他の事業

1 問い合わせ対応

富士宮市の歴史や民俗などに関する、市内外からの問い合わせ 63 件に対応した。

2 小中学校総合学習への対応

市内小中学校の総合学習（富士山学習）の一環として、児童・生徒の訪問に対応した。また、各学校を訪問し講話を行った。

3 富士山まちづくり出前講座

富士山文化課職員が講師となり、小中学校・公民館等に出向き、郷土の歴史などを紹介する講座を開催した。



写真 53 出前講座（富丘小学校）



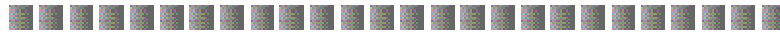
写真 54 出前講座（第三中学校）

表 3 平成 23 年度出前講座実施一覧

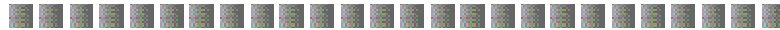
場所	対象	実施日	内容
富丘小学校	児童	平成 23 年 5 月 13 日（金）	富丘小学校周辺の遺跡
第三中学校	生徒	平成 23 年 5 月 27 日（金）	滝戸遺跡・深沢安兵衛の道標
芝川中学校	生徒	平成 23 年 6 月 10 日（金）	西山本門寺・流鏑馬
大宮小学校	児童	平成 23 年 7 月 6 日（水）	大宮城跡
富丘公民館・宮原区民館・和田公会堂・淀師区民館・大中里区民館・淀橋区民館	高齢者学級	平成 23 年 9 月 6 日（火）・7 日（水）・9 日（金）・16 日（金）・21 日（水）・27 日（火）	富士山信仰の遺跡
富士根南小学校	児童	平成 23 年 9 月 29 日（木）	古墳・歩く博物館
市立郷土資料館	生徒（第二中学校）	平成 23 年 11 月 1 日（火）	史跡富士山展の解説
富士根南中学校	生徒	平成 23 年 11 月 8 日（火）	滝戸遺跡・深沢安兵衛の道標
富士宮市総合福祉会館（富士宮市観光ボランティアの会）	一般	平成 24 年 1 月 17 日（火）	富士山信仰の遺跡
ひばりヶ丘区民会館	壮年	平成 24 年 2 月 13 日（月）	富士山信仰

資料 i 「発掘が語る 富士山信仰展」配布資料

平成 23 年度企画展



発掘が語る 富士山信仰展



期間：平成 23 年(2011)6 月 25 日(土)～7 月 10 日(日)

会場：富士宮市富士山環境交流プラザ

(富士宮市栗倉 1618-9 TEL0544-59-0050)

■ ごあいさつ

富士山は、古より雄大で優美な姿を称えられ、また噴火を繰り返す山として畏れ崇められて信仰の対象となってきました。

富士山の麓にある富士宮市には、富士山信仰に関わる遺跡が多くあります。本展示では、そのうち、発掘調査された 5 ヶ所について、富士山信仰の様相を発掘された建物跡や出土した遺物などから紹介いたします。

■ 富士山中の遺跡から出土した遺物

1 懸仏(写真 1)

この懸仏は、昭和 53 年(1978)に三島岳付近で発見され、富士山本宮浅間大社に奉納されたものです。

中央の像は、虚空蔵菩薩で、蓮華座に座し、宝冠を被り、左手に宝珠を持ち、右手は印を結んでいます。また、像の上部には天蓋があります。

刻まれた文字から、「源春」という人物の依頼で、現在の千葉県木更津市の大工である「和泉守光吉」によって、文明 14 年(1482)に制作されたことがわかります。

2 三島ヶ嶽経塚出土経巻(写真 2)

昭和 5 年(1930)に富士山頂の三島ヶ嶽の麓から発見された経巻の一部で、富士山本宮浅間大社に伝わるものです。

10 巻のうち 5 巻が開かれており、朱書で仏教の経典が書かれています。平安時代後期まで



写真 1 懸仏

さかのぼる可能性が考えられます。久安5年(1149)に末代が富士山頂に大日寺を建て、一切経を書写し、富士山中に埋納したという記録もあり、末代に関連する人物によって埋納されたものと考えられます。



写真2「無量義経徳行品第一」

■ 山宮浅間神社遺跡(写真3)



写真3 遥拝所

山宮浅間神社遺跡は、富士山南西麓の標高400m付近、山宮浅間神社境内を中心とする地域が遺跡範囲です。富士山の溶岩流がつくりだした丘陵や谷のうち、比較的新しい時期(約2,000年前)の青沢溶岩流末端の平坦面上に、富士山を望むことのできる遥拝所が設けられています。

山宮浅間神社には、本殿となる建物はありません。これは富士山をご神体として崇め祀るための場所であるためと考えられています。富士山は、噴火を繰り返し被害が著しく、これを鎮めるために富士山の神である浅間大神を祀ったと浅間大社の社記(「富士本宮浅間社記」)に記されており、山宮浅間神社がその場所とされています。山宮浅間神社は、浅間大社と深いつながりを持ち、浅間大社以前より富士山信仰の場所として成立していたと考えられています。

発掘調査は、祭壇と呼ばれる石組や、祭儀を執り行う際に大宮司などの席を示したとされる石列を中心に行われました。遥拝所を一边45mの方形に取り囲む石塁は、その下部から出土した遺物から、中世以降につくられていたことがわかりました。

■ 浅間大社遺跡(写真4)



写真4 浅間大社と掘立柱建物跡

浅間大社遺跡は、富士山南西麓の標高120m付近、富士山の湧水である湧玉池を含む浅間大社境内一帯が遺跡範囲です。

社記によると大同元年(806)、坂上田村麻呂が建物を建てて祀ったことが始まりとされており、祭神は水徳の神でコノハナサクヤヒメであるとされています。

浅間大社遺跡は、これまで10回ほどの発掘調査が

行われています。本殿裏手の一带には、推定護摩堂跡をはじめ近世以降整備された遺構や中世の整地層や土坑、本殿西側では、古代末(12世紀前半)の建物跡や13世紀のかわらけ埋納坑が見つかるなど、場所の利用に、時代による遷り変わりがあることが少しずつ明らかになってきています。また、富士浅間宮(現在の浅間大社)の大宮司であった富士氏の居館跡(大宮城跡)の発掘調査では、富士氏の豊かな生活の様子を窺い知ることができます。

浅間大社境内の湧玉池北側に見られる溶岩流上で発掘調査された、推定護摩堂跡と考えられる建物跡は、一辺13.5mのほぼ正方形に積まれた石垣内部の基壇上に建てられた約6×8mの大きさの礎石建物跡でした。明治時代以前は、日本は「神仏習合」といい、日本古来の神道と大陸からもたらされた仏教とが融合した独自の形をつくりあげていました。これは明治時代の初め、神社から仏教色を排除させた神仏分離令まで続きましたが、推定護摩堂跡により、浅間大社における「神仏習合」の様子を知ることができます。

村山浅間神社遺跡(写真5)



写真5 礎石建物跡

村山浅間神社遺跡は、富士山南西麓の標高500m付近、村山浅間神社境内を中心とする地域が遺跡範囲です。

村山浅間神社は、かつて「富士山興法寺」と呼ばれ、富士修験の中核として栄えました。修験道とは日本古来の山岳信仰に、仏教・道教などの影響のもとに平安時代中頃に成立した※とされ、超自然的能力を身につけるために山中での厳しい修行をするとされています。平安時代末の久安年間(1145～1151)、末代上人という僧侶

が富士山頂に大日寺を建て、埋経をしたり(『本朝世紀』)、富士山中で修行をし、村山で死去した後、大棟梁と号して富士山の守護神となったという記録があり(『地藏菩薩霊験記』)、近世の村山浅間神社境内を描いた絵図には「浅間社」「大日堂」のほか「大棟梁権現社」が描かれています。

境内東端の平坦面上を発掘調査したところ、山側を削り谷側に盛土して整地した造成面の中央よりやや北側に、約2×3mの大きさの礎石建物跡が確認されました。また、盛土中からは中世の銭貨と礫石経と呼ばれる経文を写した河原石が出土しました。銭貨は主に中世に使用されたもので、造成は中世末に行われた可能性が考えられます。また、この礎石建物跡周辺から、17世紀後半から18世紀の神仏具である花瓶や香炉が出土しています。この建物跡は絵図の位置から大棟梁権現社跡と考えられます。境内西側の平坦面にも造成面が確認され、境内各所に何らかの施設があったことがわかりました。

※ 宮家準 1999「修験道」今泉滋夫編『日本仏教史辞典』吉川公文館

人穴富士講遺跡(写真6)



写真6 参道跡

人穴富士講遺跡は、富士山西麓の標高700m付近、人穴浅間神社境内を中心とする地域が遺跡範囲です。境内には富士山の溶岩洞穴があり、近世に江戸を中心として一般の民衆の間で盛んになった富士講の聖地として、200基をこえる富士講講員の供養塔や登山記念碑などの碑塔群が献塔されています。

人穴富士講遺跡周辺は、古くより駿河と甲斐との交易路（「甲州街道」・「若彦路」）が通っています。発掘調査は、調査前より石列や石段が確認されていた、現在の参道より東側の地域に対して実施され、溶岩洞穴の上部にあたる場所

に礎石建物跡2棟、その他参道、道跡などが確認されました。

礎石建物跡は、約6m四方の大きさと約3.5m四方の大きさの2棟分が、一部重なった状態で発掘されました。建物跡は、溶岩洞穴上に位置し、正面はほぼ南面しています。参道は、これらの建物跡を目指して北上しており、何らかの宗教施設があったことがわかります。出土遺物は17～19世紀の磁器や銭貨などでした。

おわりに

日本には古来より、山や川、木や石などの自然に神が宿ると信じる伝統があります。富士山への信仰も、修験道や富士講など、時代による遷り変わりはありますが、根底に流れる思いは変化せず、現代にもつながっているのかも知れません。

信仰という、目に見えない精神世界について、発掘調査により確認された遺構や出土した遺物から、実際に当時の人々がどのような形で何を使い富士山信仰に関わっていたのか、ご来場の皆様にお伝えすることができれば幸いです。

■ 展示品目録

備考：表記以外は富士宮市保管資料

番号	展示品名	遺 跡	時 代	備 考
1	懸仏		ぶんめい 文明14年(1482)	富士山本宮浅間大社蔵
2	経巻	三島ヶ嶽経塚	12世紀	富士山本宮浅間大社蔵
3	かわらけ	山宮浅間神社遺跡	12～15世紀	
4	かわらけ	浅間大社遺跡	12～15世紀	
5	かざり かなで 飾り金具	浅間大社遺跡		
6	けんぼん ちやくしよく ふじ まんだら ず 絹本着色富士曼荼羅図 (レプリカ)		室町時代末期(16世紀後半)	くにして いじゅうようふん かざい 国指定重要文化財 (富士山本宮浅間大社蔵)
7	礫石経	村山浅間神社遺跡	16世紀か	
8	銭貨	村山浅間神社遺跡	しやちゅう 初铸年代 10～15世紀	し・どうげんぼう えいらくつうほう 至道元寶、永楽通寶ほか
9	せい じけびよう 青磁花瓶	村山浅間神社遺跡	17世紀後半～18世紀	ひぜんさん 肥前産
10	こうろ 青磁香炉	村山浅間神社遺跡	18世紀後半～19世紀	肥前産
11	かわらけ	村山浅間神社遺跡		
12	そめつけわん 染付碗	人穴富士講遺跡	19世紀後半	せと・みのさん 瀬戸・美濃産
13	びん 染付瓶	人穴富士講遺跡	18世紀後半	瀬戸・美濃産
14	銭貨	人穴富士講遺跡	17世紀	かんえいつうほう 寛永通寶
15	ばん 青磁盤	大宮城跡	14世紀	ちゅうごく りゅうせんよう 中国龍泉窯
16	おうゆう てつえばん 黄釉鉄絵盤	大宮城跡	13～14世紀	せんしゅうよう 中国泉州窯
17	青磁碗	大宮城跡	12世紀後半～15世紀後半	中国龍泉窯
18	青磁香炉	大宮城跡	13世紀後半～14世紀前半	中国龍泉窯
19	てつゆう てんもくちやわん 鉄釉天目茶碗	大宮城跡	14世紀後半～15世紀中頃	中国
20	はな いけ 青磁花生	大宮城跡	13世紀後半～14世紀前半	中国龍泉窯
21	はくじし じこ 白磁四耳壺	大宮城跡	13～14世紀後半	中国
22	せい はくじめいびん 青白磁梅瓶	大宮城跡	13世紀	けいとくちんよう 中国景德镇窯
23	青磁	大宮城跡		こうらい 高麗
24	鉄釉天目茶碗	大宮城跡	15世紀	瀬戸・美濃産
25	かいゆう さんゆう こざら 灰釉縁釉小皿	大宮城跡	15世紀	瀬戸・美濃産
26	みずさし 鉄釉水差	大宮城跡	15世紀後半	し・とろさん 志戸呂産
27	さびゆう すりばち 錆釉搦鉢	大宮城跡	15世紀後半	瀬戸・美濃産
28	かわらけ	大宮城跡	16世紀	
29	うるしわん 漆碗	大宮城跡	中世	



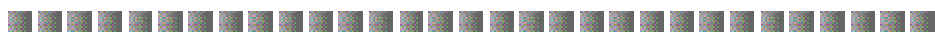
平成23年度企画展 発掘が語る 富士山信仰展

(展示パンフレット)

お問い合わせ 富士宮市教育委員会 富士山文化課

電話 0544-22-1187 FAX 0544-22-1242

E-mail e-bunka@city.fujinomiya.shizuoka.jp



資料 ii 「史跡富士山展」配布資料

富士宮市立郷土資料館リニューアル記念

史跡富士山展

1 はじめに

富士山は、長く信仰対象となってきた山であり、山麓地域には、富士山信仰に関する文化財が数多く残されている。平成二十三年二月、これらの文化財のうち、特に重要なものが「史跡富士山」として一括して国の史跡に指定された。また、今後の追加指定が検討されているものもある。

2 富士山信仰

I 噴火と浅間神

古代、富士山は激しい噴火を繰り返し、山麓地域に甚大な被害を与えた。これに対し、人々は富士山を「浅間神」として祀り、朝廷は浅間神に「明神」の尊称や位階を与え沈静化を図った。富士山本宮浅間大社及びその旧地と伝承される山宮浅間神社は、浅間神を祀った最初期の施設と考えられている。

II 修験者と道者の登拝

平安時代後期以降、富士山の噴火活動が沈静化すると、富士山に登る人々があらわれるようになった。この時代の登山は、修験に関係する宗教者が修行・信仰のために行ったと考えられている。中世、村山には「興法寺」が形成され、村山を拠点とする修験者（山伏）の活動があった。十五～十六世紀には、宗教者に加え、一般の登山者（道者）も増加した。「絹本著色富士曼荼羅図」には、大宮の浅間神社、村山の興法寺を経て山頂へ向かう道者の姿がある。また、須走口や須山口にも道者が集い、登拝を行った。

また、富士山の神仏は、本地垂迹説を受け大日如来を本地とする「浅間大菩薩」と称された。

【史跡富士山として指定された文化財】

富士山本宮浅間大社（富士山八合目以上境内地を含む）、山宮浅間神社、村山浅間神社、須山浅間神社（裾野市）、富士浅間神社（小山町）、北口本宮富士浅間神社（富士吉田市）、河口浅間神社（富士河口湖町）、富士御室浅間神社（富士河口湖町）、吉田口登山道

【追加指定が検討されている文化財】

人穴富士講遺跡、大宮・村山口登山道、須山口登山道、須走口登山道

*下線は富士宮市内に所在するもの



「絹本著色富士曼荼羅図」

Ⅲ 近世の富士登山と江戸の富士講

近世の富士登山道には、吉田口、須走口、大宮・村山口、須山口があった。大宮・村山口は、浅間神社や興法寺の周辺に宿坊が展開し、主に富士川以西の道者を受け入れた。吉田口は、「富士講員の本道」とされ、多数の富士講員が集まり、御師町が形成された。富士講は江戸時代中期以降大変隆盛し、富士講員は富士山を信仰し、富士山に登ることで現世利益が得られるとして活発に登山を行った。

また、当時、富士山頂や登山道には様々な施設があり、人々はそれらを参拝しながら登山した。

Ⅳ 明治以降の富士登山

明治初年の神仏分離令・廃仏毀釈運動を受け、富士山中から仏教色が排除され、山中に祀られていた多数の仏像は山から降ろされたり破壊されたりした。また、信仰によらない登山が増加し、富士山はスポーツとしての登山の対象となった。女人禁制が解かれたことで、女性も山頂まで登ることができるようになった。



村山の興法寺で発行された富士山の御札

3 富士宮市内の史跡富士山

富士山本宮浅間大社

浅間神を祀る最初期の施設と考えられている。平安時代の歴史書『日本三代実録』には、富士山の噴火を鎮めるために駿河国で浅間神を祀り、神階奉授を行ったことが記されている。その場所が駿河国一ノ宮とされる浅間大社だと考えられている。

中世、道者の登拝が一般化すると、浅間神社も登拝に関係する施設となった。「絹本著色富士曼荼羅図」には、浅間神社を参拝し湧玉池で禊を行う道者の姿が描かれている。また、近世には神社周辺に道者が宿泊する宿坊があった。



「絹本著色富士曼荼羅図」(湧玉池部分)

山宮浅間神社

溶岩台地上に遥拝所があり、正面に富士山を望むことができる。山宮浅間神社は、古くから社殿（本殿）がなく、遥拝所から富士山（御神体）を直接見て拝み、祀っていた場所と考えられている。遥拝所の周囲には火山礫を積み上げた石塁があり、遥拝所の神聖性を区切るための結界と考えられる。発掘調査の結果からは、十一～十二世紀には現在の遥拝所の周辺で祭祀が行われていたと考えられている。



遥拝所から望む富士山

村山浅間神社

村山には、かつて興法寺という寺院があり、富士山中で修行する修験者（山伏）の拠点だった。村山に伝わる正嘉三年（1259）銘の大日如来坐像からは、当時村山を拠点とする活動のあったことが伺える。戦国時代には、今川氏の保護を受け道者の登拝の拠点として繁栄した。近世には、村山三坊（池西坊・辻ノ坊・大鏡坊）が興法寺と集落、大宮・村山口登山道を管理した。また、村山の修験者（法印）は、主に富士川以西の地域に対して富士山信仰を広めたり、富士山中で修行を行ったりした。

明治時代になると、神仏分離令・廃仏毀釈運動を受けて興法寺は廃され、大日堂と浅間神社に分離された。

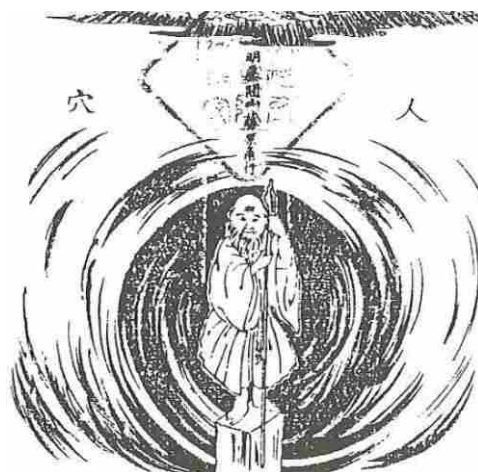


正嘉三年銘大日如来坐像

人穴富士講遺跡

溶岩洞穴「人穴」と富士講員の建てた碑塔群がある。鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』には、人穴探検談があり、人穴は「浅間大菩薩の御在所」とされ、富士山信仰の対象であったことが伺える。

近世初頭、富士講の開祖長谷川角行は溶岩洞穴「人穴」にこもって修行したとされる。このため、人穴は富士講員の信仰対象となり、富士講員が参詣したり碑塔を建立したりした。また、近世、溶岩洞穴「人穴」やその周辺は赤池家が管理しており、修行者や参詣者の世話、碑塔の建立の世話などを行っていた。



角行の御札（部分）

大宮・村山口登山道

富士山南西麓の大宮の浅間神社(現浅間大社)、村山の興法寺を経て山頂南側に至る登山道である。最も古い富士山登山道とされる。近世、大宮・村山口登山道と山頂の大日堂及びその周辺は興法寺(村山三坊)が管理した。また、登山口の大宮と村山には道者が宿泊する宿坊があった。

明治三十九年(1906)、浅間神社を起点とする新道(カケスバタロ)が開かれたため、現在の六合目以下は使用されなくなった。今後、富士宮口六合目以上の部分について史跡富士山への追加指定が検討されている。



大宮・村山口登山道の道標

山頂信仰遺跡

富士山頂は、神仏の世界として信仰されてきた。「絹本著色富士曼荼羅図」には、山頂に仏の姿と散華が描かれており、山頂部が仏の世界と認識されていたことが伺える。また、山頂部は曼荼羅に擬して「八葉」(八峰)とも呼ばれ、登山口や信仰により様々な仏が当てられた。

近世、山頂には大日堂や薬師堂、仏像類があり、登山者はこれらを参拝しながら山頂を廻る「お鉢廻り」を行った。また、火口は「内院」と呼ばれ、大日如来(または浅間大菩薩、浅間大神)が鎮座する場所とされた。

明治初年の神仏分離令・廃仏毀釈運動を受け、富士山中の仏教施設は破却され、仏像は富士山から降ろされたり破壊されたりした。



「蓮嶽真形図」(部分)

史跡富士山展

期 間：平成23年10月15日～平成24年2月29日(予定)

場 所：富士宮市立郷土資料館(富士宮市宮町14-2 市民文化会館1階)

問合せ先：富士宮市教育委員会富士山文化課

TEL:0544-22-1187 FAX:0544-22-1242

資料 iii 「後藤清吉郎展示室」配布資料

《富士宮市立郷土資料館内 後藤清吉郎展示室 配布資料 2011. 10》

今回、後藤清吉郎展示室では、型染絵・金唐和紙を中心とした作品を展示しています。清吉郎が残したこれらの作品を御覧いただき、清吉郎の仕事の一端を知っていただければ幸いです。

… 後藤清吉郎紹介 …

後藤清吉郎は、明治 31 年に大分県に生まれ、東京や京都で日本画・洋画・デザイン・染色などを学び、戦前から染色家として活躍した。

昭和 20 年に富士宮市に来住してからは、全国の紙漉き場行脚を続け和紙研究に取り組んだ。さらに、型染や印伝に和紙を使用し、金唐革紙を独自の方法で復元するなど、和紙工芸の発展に大きな功績を残した。また、公民館の成人学校講師を長い間勤めて多くの門下生を輩出し、富士宮市の芸術文化の向上に大きな役割を果たした。



— 後藤清吉郎略年譜 — ※【】内は清吉郎の年齢

- 明治 31 年(1898) 【0 歳】 5 月 4 日、大分市大道町に生まれる。
大正 3 年(1914) 【16 歳】 関西美術院に入学する。
昭和 元年(1926) 【28 歳】 インド更紗研究のためインドに 3 年間滞在する。
昭和 17 年(1942) 【44 歳】 この年から 3 年連続して文展工芸の部で入選する。
昭和 20 年ころ 戦争のため、染色の布が入手困難となり紙を代用する。
昭和 20 年(1945) 【47 歳】 富士宮市に来住。

(この頃から、柳宗悦の勧めで日本中の紙漉き場を廻る。)

- 昭和 25 年(1950) 【52 歳】 国画会工芸部会員となる。
昭和 29 年(1954) 【56 歳】 『紙譜帖』を出版する。
昭和 33 年(1958) 【60 歳】 『日本の紙・東日本』を出版する。
昭和 34 年(1959) 【61 歳】 この頃から紙の博物館研究嘱託となる。
昭和 42 年(1967) 【69 歳】 成人学校第 1 回日本画教室講師を勤める。
昭和 46 年(1971) 【73 歳】 勳五等瑞宝章を受ける。
昭和 48 年(1973) 【75 歳】 市内下条に手漉和紙工房をかまえる。
昭和 50 年(1975) 【77 歳】 金唐革紙の型棒を譲り受け、復元に取り組む。
大阪阪急百貨店で個展を開催する。
紙の原点を求めネパールに一ヶ月間滞在する。
昭和 53 年(1978) 【80 歳】 静岡県指定無形文化財保持者(手漉和紙)に認定。
昭和 59 年(1984) 【86 歳】 『手漉の紙』を出版する。
平成 元年(1989) 【91 歳】 7 月 9 日、逝去。



型染絵「五月」



金唐和紙「色紙箱」

No.	作品名	種類	規格(cm)	No.	作品名	種類	規格(cm)
1	※「ジャンク」	型染絵(布)	54.0×59.6	25	「花鳥」	金唐和紙	50.5×61.5
2	「ジャンク」	型染絵	52.0×63.0	26	「花鳥」	金唐和紙	53.5×67.2
3	※「五月」	型染絵	42.2×56.4	27	※「花鳥」	金唐和紙	27.5×36.5
4	「ジャンクと鳥」	型染絵	33.7×43.3	28	※本装丁 「古渡更紗」	金唐和紙	32.6×61.6
5	「春夏秋冬」	型染絵	41.0×51.5	29	「唐草」	金唐和紙	22.5×30.5
6	※「朝鮮模様」	型染絵	37.6×27.2	30	※色紙箱	金唐和紙	30.0×30.5
7	「はな」	型染絵	36.3×36.5	31	※文箱	金唐和紙	39.0×8.5×7.5
8	「三門」	型染絵	26.5×32.3	32	大箱	金唐和紙	17.0×24×10.5
9	「くら」	型染絵	20.5×26.0	33	※小箱	金唐和紙	9.0×11.0×7.0
10	「なまこ壁」	型染絵	21.5×24.3	34	※壁掛け	金唐和紙	19.5×19.4
11	「とり」	型染絵	45.7×61.2	35	※煙草入れ	金唐和紙	9.5×8.3×3.0
12	「模様」	型染絵	18.5×29.1	36	小筒	金唐和紙	9.0×7.3
13	「晩秋」	型染絵	11.5×16.4	37	「模様」	漉合わせ	24.0×35.5
14	「三桎のつぼみから 開花まで」	型染絵	27.0×37.0	38	「模様」	漉合わせ	24.0×35.5
15	「三桎」	型染絵	14.0×14.0	39	「模様」	漉合わせ	24.0×35.5
16	「紙を漉く小屋」	型染絵	11.5×14.2	40	※「富士山」	漉合わせ	22.5×27.5
17	「さらし」	型染絵	13.0×14.7	41	「春のあけぼの」	漉合わせ	25.0×29.0
18	「大和国櫨」	型染絵	30.0×39.0	42	「かすみ」	漉合わせ	25.0×29.0
19	「くら」	型染絵	22.8×27.4	43	「貝」	漉合わせ	25.0×29.0
20	「とり」	漆型染絵	19.0×27.2	44	「シダ」	漉込み	23.0×26.2
21	「模様」	漆型染絵	18.8×25.8	45	「ふじあざみ」	肉筆画	24.0×27.0
22	「模様」	漆型染絵	19.0×26.5	46	「わらび・すみれ」	肉筆画	24.0×27.0
23	「模様」	漆型染絵	19.0×26.5	47	「白菜」	肉筆画	17.5×21.5
24	「模様」	漆型染絵	17.5×19.6	48	「栗」	肉筆画	16.0×21.5

後藤清吉郎の作品は、富士宮市役所の HP でも閲覧することができます。

アドレス：<http://www.city.fujinomiya.shizuoka.jp/e-museum/goto/goindex.htm>

内房の里を訪ねる

距離約5km、徒歩約3時間

【コース】

- スタート** 芝川公民館
内房分館
- ↓
- ①祥禅寺
- ↓
- ②廻沢川
- ↓
- ③馬頭観音
- ↓
- ④龍興寺
- ↓
- ⑤相沼浅間神社
- ↓
- ⑥白鳥山（説明）
- ↓
- ⑦本成寺
- ↓
- ⑧首塚（胴塚）
- ↓
- ⑨富士川流域の民俗行事
（説明）
- ↓
- ゴール** 芝川公民館
内房分館

【問い合わせ先】
富士宮市教育委員会
富士山文化課
0544-22-1187



内房地区の環境

南北に広がる内房地区は、中央に稲瀬川が流れ、稲瀬川やそれに合流する河川沿いの平地に集落が展開する。また、大晦日・大嵐などの山の高所にも集落が点在している。

内房地区は、北部は山梨県から駿河湾へと流れる富士川に面し、白鳥山を挟んで山梨県南部町に接しており、南部は静岡市に接している。富士川は、江戸時代から明治時代にかけて甲斐国（山梨）と駿河国（静岡）を結ぶ物流・交通の大動脈であり、数多くの川舟が行き交った。また、富士川沿いに甲斐・駿河を結ぶ街道「河内道」が通っており、物資の運搬や身延山への参詣などに利用され、多くの人々が行き交った。

かつて富士宮市の大部分は駿河国富士郡に属していたが、富士川西岸の内房地区は庵原郡に属していた。昭和 31 年富士川東岸の芝富村と合併して「富原村」となり富士郡に入った。その後の市町村合併により芝川町、そして富士宮市となった。

① 祥 禅 寺

創建は不詳だが、戦国時代には穴山武田氏の庇護を受けたとされる禅宗（臨済宗）の古刹である。明治七年（1874）祥禅寺の前を流れる廻沢川の洪水により庫裏が流される等大きな被害を受けたため、明治二十二年（1889）に現在の建物が建てられた。

祥禅寺には、韋駄天立像 1 体が胎内仏とされる小像とともに伝っており、庫裏に祀られている。韋駄天は、禅宗系寺院の庫裏（食事を用意する場所・僧侶が生活する場所）に守護として祀られることが多いという。

また、本堂の裏手には子安地蔵が祀られており、冬と夏に祭りが行われている。

② 廻 沢 川

廻沢川は、祥禅寺の西で稲瀬川に合流する。稲瀬川は、廻沢川や境川などの小河川の流入を受けながら内房地区を南から北に流れ、尾崎集落で富士川に合流する。内房地区には、仲集落や廻沢集落など河川沿いの平地に展開する集落が多くある。稲瀬川やその支流は、普段は水量も少ない穏やかな河川だが、大雨の際には荒れ狂い度々集落に被害を及ぼした。

③ 馬頭観音

かつて、馬は農作業や荷運びなどに用いられ、大切な労働力であった。このため、馬の健康祈願や供養のために各所に馬頭観音が祀られ、今も集落の外れや古い道筋などに馬の頭を乗せた馬頭観音立像や「馬頭観音」と刻まれた文字碑が見られる。

ここにある馬頭観音は、道路整備等のために移転されたものを集めたものである。文政六年（1823）や天保十五年（1844）など江戸時代の年号が記されたものや、日清戦争・日露戦争に徴発された軍馬を供養するものなどもある。

④ ^{りょうこうじ}龍興寺

寺伝によると、^{せいけんじ}清見寺（静岡市）の^{せつしん}説心和尚が隠居所として開いたことに始まるという。その際、説心は厨子と本尊（聖観音菩薩）を持参したというが、現在厨子には本尊として如意輪観音像が納められている。厨子は禅宗様式で、特徴から室町末期から江戸初期のものと推定される。

また、厨子の隣には平安時代末期の作と推定される阿弥陀三尊像が祀られている。阿弥陀如来坐像台座の墨書から、慶安三年（1650）に修復されたことが分かる。阿弥陀三尊像は、元は他の寺に祀られていたが、後に龍興寺に祀られるようになったという。

⑤相沼浅間神社（浅間神社八幡宮）

白鳥山から続く丘陵の南東端に位置する。大宮の浅間神社（現富士山本宮浅間大社）に縁のある神社とされ、境内からは富士山を望むことができる。また、穴山武田氏に縁のある神社ともいわれ、勝千代丸に関連する棟札が伝えられている。神社の位置する高台は、その立地・地形などから戦国時代の山城「白鳥山城」との関連を指摘する意見もある。

本殿には、室町時代末～江戸時代前半の作と推定される神像2体が祀られている。袈裟を着た僧形の男神像は八幡神、裳を履いた女神像は浅間神とされる。境内には、江戸時代の年号が刻まれた石灯籠や庚申塔などがある。

⑥白鳥山

白鳥山は、標高 567 メートルあり、静岡県と山梨県との県境にあたる。山麓には古くから両国を結ぶ道が通い、山頂からは富士川流域を臨むことのできる要地であった。そのため、戦国時代には山城が築かれ、武田信玄の駿河侵攻の際にはのろし台として使用されたといわれている。

また、白鳥山周辺の集落では小正月にどんどこ焼きをしない場所が多い。その理由として白鳥山と関連する話が伝えられている。これは、のろしと見間違える可能性があるどんどこ焼きを禁止するためだと伝えられている。

白鳥山とどんどこ焼きの話

（１）白坊主とどんどこ焼き

昔どんどこ焼きをしていたところ、白鳥山から白い坊主が手招きして村人を呼んだ。そうすることが続いたので、気味が悪くなり、どんどこ焼きをしなくなったという。

（２）白鳥山の白い鳥とどんどこ焼き

昔大きな白い鳥が白鳥山に飛んで来た。村人がどんどこ焼きをしていたところ、この鳥が村人の方を向いて大きく羽ばたきをした。村人は、白い鳥がどんどこ焼きをしてはいけないと言っているのかと思い、それからどんどこ焼きをしなくなったという。

⑦本成寺

寺伝によると、鎌倉時代、ここは真言宗の「胎鏡寺」という寺であり、東林坊と仏像坊という兄弟が住職をしていたが、日蓮に説き伏せられて弟子となった。そこで寺は改宗して「長遠山久成寺」となり、後に「長遠山本成寺」となったという。

また、ここは身延山に向かう身延道の道筋のひとつにあたり、寺院裏手の白鳥山の入口には道標を兼ねた題目塔がある。

○願満祖師像

寺には、願満祖師像（日蓮像）が伝わっている。高さ約 32 センチメートルの坐像であり、衣服を彫刻した上に布製の法衣と袈裟を着せ掛けている。布製の衣服は、毎年六月一日と十月一日に着せ替えるという。

○八幡宮（尾崎氏神社）

本成寺南東の高台に、尾崎地区の氏神である八幡宮が祀られている。

⑧首塚（胴塚）

内房地区は、永禄十一年（1568）に駿河国に侵攻した武田軍と今川軍とが戦った「内房口の戦い」の戦場とされる。ここは、内房口の戦いで討死した者の首（または胴）を集めて葬った場所といわれる。また、内房地区には他にも内房口の戦いにまつわるとされる五輪塔がある。

⑨富士川流域の民俗行事（投げ松明とカワカンジョウ）

富士川流域では、特徴的な盆行事が行われている。これらは、先祖を供養するとともに、富士川で亡くなった人を供養する川施餓鬼の意味を持つものとされる。

内房地区の尾崎集落では、お盆に「カワカンジョウ」と「投げ松明」が行われる。カワカンジョウは、麦藁や笹でつくった作り物「カワカンジョウ」に火をつけ、富士川に流すものである。これは、富士川流域の他の地区では「カワガンジー」「カワカンジー」とも呼ばれる。投げ松明（「ナゲダイ」・「ナゲタイ」）は、竹や麦藁で作った籠を上につけた柱を河川敷に立て、火のついた「松明」（薪の小束）を籠に投げ入れて燃やすものである。

田の神さん

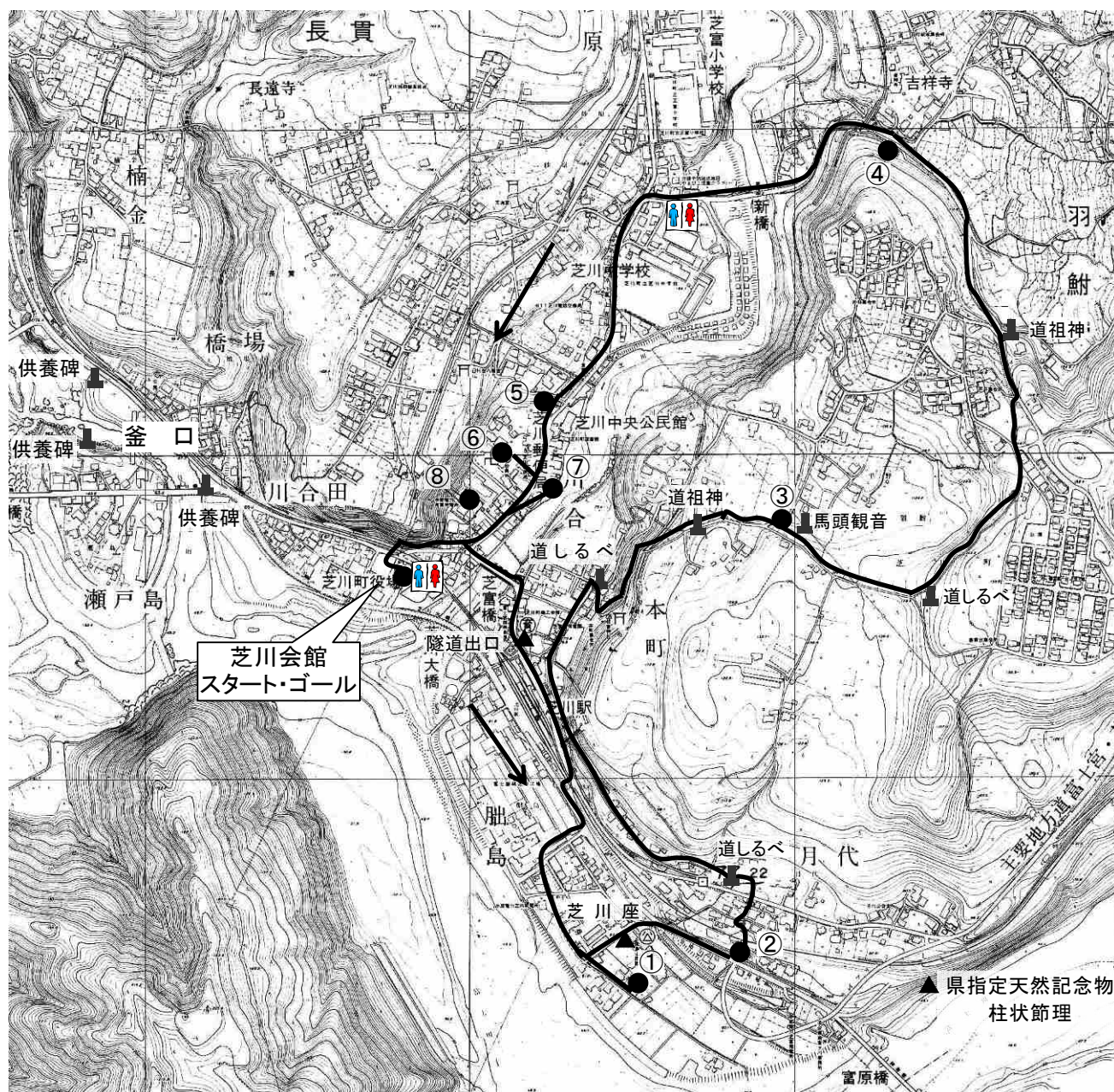
田植えの終わった六月頃、内房地区の尾崎・落合・相沼の各集落では「田の神さん」が行われる。これは、田んぼの神を集落の端まで送る意味があるとされるが、農作物につく悪い虫を集落から追い払う「虫送り」の民俗事例に近いものと考えられる。

尾崎集落では、子供たちが太鼓を打ち鳴らし「田の神送れ」と唱えながら行進して集落を回り、富士川河川敷にいたる。相沼集落では、子供たちが笹を持って行進し、集落の外れにある境川にかかる長田橋の上から笹を川に投げて田の神を送る。

長貫・羽鮒を歩く

距離約4km、徒歩約3時間

【コース】**芝川会館** → ①舩島新田 → ②子安さん → ③いかだ師の道（身延道）と道しるべ
→ ④題目塔 → ⑤おでこ道祖神 → ⑥妙興寺と爪引曼荼羅 → ⑦操り舟跡・柱状
節理 → ⑧長貫発電所 → **芝川会館**



【問い合わせ先】 富士宮市教育委員会 富士山文化課 電話 0544-22-1187

芝川は、猪之頭の湧水群を水源とし、天子山系の沢水等を集めて流下し長貫の川合で富士川に合流する。途中、北山用水や大堰用水など市内を灌漑する多数の用水の水源として利用され、富士宮市の発展の源となった。

みかつきじま ① 𪛗島新田

𪛗島は、富士川左岸の自然堤防上に位置するため水が得難い場所だった。寛文九年（1669）、羽𪛗村^{はぶな}の太郎右衛門と又左衛門が新田開発と用水路開削を願い出、12年間の難工事の末、天和四年（1684）用水が開通し𪛗島に新田が開かれた。本町に太郎右衛門の墓碑が、𪛗島に又左衛門の碑がある。

用水は、芝川中学校の南で芝川から取水し、芝川左岸の岸壁^{ずいどう}を隧道（トンネル）で通り抜けて芝川駅北側で地表に出、𪛗島に至る。隧道の途中には、工事中に出たがれきの搬出や地下水の排出、採光や空気穴のために幾つかの横穴が開けられた。

天保十二年（1841）には、長年の使用により隧道の補修が必要になったため、羽𪛗村名主今左衛門・月代村名主実右衛門・組頭利右衛門・宗八らにより補修工事が計画された。工事は、羽𪛗村の伊右衛門・百姓代宗衛門・茂兵衛が請負い、高遠石工の今朝吉・文吉が作業し、翌年竣工したという。（『芝川町誌』より）

② 子安さん

杉田の子安神社*を勧請し、昭和九年に建立された。ここの子安社には、明治から昭和初期にかけて産婆として活躍した「くまさん」という女性が共に祀られている。くまさんが取り上げると出産が軽くなると言われ、方々から産婆を頼まれたという。

子安さんの傍には、道祖神や馬頭観音*などがある。道祖神は昭和九年（1934）に造立されたもので、𪛗島の住人が富士川の河原で拾った自然石が用いられている。

③ いかだ師の道（身延道）と道しるべ

羽𪛗には古い道筋が通っており、道しるべが残されている。平野集落にある道しるべは、岩本・大宮、羽𪛗・西山、身延山へ向かう道筋の分岐点にある。この道筋は、富士川東岸の地域から身延山へ向かう「身延道」のひとつでもある。また、地域ではこの道筋を「いかだ師の道」と呼んでいる。かつて、甲斐国（山梨県）で切り出された材木が、いかだに組まれて富士川を下り数多く運ばれた。「いかだ師の道」は、いかだ師が帰路歩いて戻った道筋だという。

④ 題目塔*

堂の中には、貞享二年（1685）と貞享四年（1687）の年号が記された題目塔が祀られている。また、堂の中には、寛文十三年（1673）に羽𪛗村と隣接する上中里村とが境界を争った際の古文書（写）が掲示されている。

⑤おでこ道祖神

上部が前に突き出た独特な形の石に「道祖神」の文字が刻まれており、その形から「おでこ道祖神」と呼ばれている。おでこ道祖神は、市内では芝富地区に見られ、地区には他にも同様の石を用いた甲子碑がある。

道祖神は、道路や旅人、集落の守り神とされる。市内全体で約 400 基あるが、富士川西岸の内房地区にはない。人物像を刻んだものや文字を刻んだものがあり、市内では特に 2 体の人物像を刻んだ双体道祖神が多い。

⑥妙興寺と爪引曼荼羅

『駿河志料』によると、元は日興を開基とする「妙福寺」であったが、元禄年間に「妙興寺」と改めたという。日興は、日蓮の高弟である六老僧のひとりであり、母は河合入道の娘妙福尼とされる。また、妙興寺には、妙福尼の供養碑や日興が爪で石に刻んだとされる「爪引き曼荼羅」がある。

⑦操り舟跡・柱状節理

ここには、かつて芝川を渡る渡船が通っていた。『駿河記』には、「羽鮒月代 操舟渡」として絵が載っている。それによると、兩岸に綱を渡し、その綱と船とを滑車で結び、綱伝いに流されないようにして川を渡っていた。現在は、上流での取水等により水かさが減り、往時の面影はあまりない（現在、河原に降りることはできない）。

操舟の船着場付近の対岸には、柱状節理が見える。柱状節理とは、富士山の溶岩が六角柱の柱状に固まったものである。市内では富士川や芝川の河岸で見られ、富原橋下流富士川左岸のものは静岡県天然記念物に指定されている。また、柱状節理は石造物の石材として利用されることもあり、妙興寺の題目碑や妙興寺近くの地神碑は柱状節理の石柱が利用されている。

⑧長貫発電所

四日市製紙の発電所として大正九年（1920）に発電を開始し、現在は中部電力㈱が発電を行っている。出力 3,400kw の小規模水力発電所であり、西山と大久保の境付近で芝川から取水する。芝川には、他にも電力会社や製紙会社の発電所が幾つかある。中部電力㈱は、富士川以西に電気を供給しているが、富士川東岸の芝川流域に長貫・鳥並・西山・芝富の 4 発電所を運営し、発電を行っている。

* 子安神社…富士宮市杉田にある子安神社は、安産・子育ての神として市内や周辺地域で信仰されている。「富士宮市歩く博物館」L コース参照。

* 馬頭観音…六観音のひとつで、頭上に馬の頭を乗せた姿で表されることが多い。かつて馬は農作業や荷物の運搬に用いられ、大切な労働力として飼育する家が多かった。そのため、馬の無病息災祈願や死んだ馬の供養として馬頭観音の石造物が盛んに作られた。

* 題目塔……「南無妙法蓮華經」の文字が刻まれた石造物。「ひげ題目」と呼ばれる独特の字体で刻まれたものもある。

富士川舟運と釜口峡

かつて富士川は、甲斐国（山梨県）と駿河国（静岡県）とを結ぶ重要な交通路だった。物資や人を運ぶ数多くの川舟が行き交っていたが、日本三大急流のひとつに数えられるほど流れが速く水量も多いため、かつては水難事故が多く起きたという。

「釜ヶ淵」とも呼ばれた釜口峡も難所のひとつであり、川幅が急に狭くなり一層急流となる場所だったため、多くの水難事故が起きた。元禄元年（1688）釜口橋上流左岸に「水神山本立寺」が建立された。現在、本立寺は廃寺となっているが、付近には水難者の供養塔や歴代住職の墓石が残されている。供養塔は、高さ約 3 メートルの柱状節理の石柱を用いたもので、安政四年（1857）に建立された。正面に「南無妙法蓮華經」、左面には「南無生身日蓮大菩薩水神宮」、右面には「天下泰平五穀成就船中安全水神山」と刻まれている。裏面には発願主とともに、寄進に応じた大久保村、西山村、羽鮒村、月台村、長貫村、内房村、下稲子村の村名がある。

◆釜口狭の橋

川幅が狭い釜口峡には、慶長十三年（1608）家康の命により藤蔓を用いた吊橋がかけられたという。以降、洪水による流失や老朽化等により幾度も架け替えられ、昭和二十四年に現在の釜口橋が架けられた。大正七年（1918）には、歩兵連隊が通行中、重量オーバーの為に橋が落下し 7 名が死亡する事故が起きた。富士川下流左岸の釜口橋の袂にこの供養碑がある。また、瀬戸島から尾崎の間にはかつて渡船が通っていたが、現在は内房橋が架けられている。

◆富士川の盆行事

かつて、富士川は難所が多く、数多くの水難事故が起こった。釜口狭付近には、水神宮（橋場）や供養塔（瀬戸島）がある。また、流域の集落では「投げ松明」や「カワガンジー（カワカンジョウ、カワカンジョウリ）」、「カワクヨウ」等の独特な盆行事が行われている。これらは、集落の死者を供養するとともに、富士川で亡くなった死者を供養する意味もあるとされる。

下羽鮒地区（月代・古田・本町・舩島集落）では、麦藁などで「カワカンジョウリ」を作り、富士川に流して供養していた。現在は河川敷で燃やして供養している。



下羽鮒地区のカワカンジョウリ

資料 vi 富士宮市内指定文化財一覧

〈平成 24 年 3 月 31 日現在〉

	種 別		文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定日	備 考
1	国	重要文化財・建造物	富士山本宮浅間神社本殿	富士宮市宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	明治 40.5.27	
2	〃	〃 ・ 〃	大石寺五重塔	〃 上条 2057	大石寺	昭和 41.6.11	
3	〃	重要文化財・絵画	絹本著色富士曼荼羅図	〃 宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭和 52.6.11	
4	〃	重要文化財・工芸品	太刀 銘景光	〃 〃	〃	明治 45.2.8	
5	〃	〃 ・ 〃	脇差 銘信国	〃 〃	〃	〃	
6	〃	〃 ・ 〃	太刀 銘吉用	〃 上条 2057	大石寺	大正 12.3.28	附 元禄 13 年極月折紙
7	〃	重要文化財・書跡典籍	紙墨法華経	〃 西山 671	西山本門寺	昭和 24.2.18	8 巻
8	〃	〃 ・ 〃	紺紙金字法華経	〃 〃	〃	〃	10 巻
9	〃	〃 ・ 〃	法華證明鈔	〃 〃	〃	昭和 27.7.19	
10	〃	〃 ・ 〃	貞観政要巻第一日蓮筆	〃 北山 4965	北山本門寺	〃	2 巻
11	〃	〃 ・ 〃	藍紙細字金字法華経	〃 〃	〃	昭和 29.3.20	
12	〃	〃 ・ 〃	日蓮自筆遺文	〃 上条 2057	大石寺	昭和 42.6.15	26 巻
13	〃	重要文化財・古文書	日蓮遷化記録	〃 西山 671	西山本門寺	平成 5.1.20	
14	〃	特別名勝	富士山	富士山略二合目以上	（富士宮市他）	昭和 27.11.22	
15	〃	特別天然記念物	狩宿の下馬ザクラ	富士宮市狩宿 98-1	井出信子(富士宮市)	昭和 27.3.29	
16	〃	〃	湧玉池	〃 宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	〃	
17	〃	天然記念物	万野風穴	〃 山宮字長穴	（富士宮市）	大正 11.3.8	穴全部・間口 30 間
18	〃	史 跡	千居遺跡	〃 上条 1818 他	大石寺	昭和 50.6.26	
19	〃	〃	大鹿窪遺跡	〃 大鹿窪 426-1 他	富士宮市	平成 20.3.28	
20	〃	〃	富士山	富士山八合目以上他	（富士宮市他）	平成 23.2.7	含 山頂信仰遺跡、大宮・村山口登拝道、富士山本宮浅間大社、山宮浅間神社、村山浅間神社・大日堂、人穴富士講遺跡
21	〃	名勝・天然記念物	白糸ノ滝	富士宮市上井出・原	（富士宮市）	昭和 11.9.3	
1	県	建造物	西山本門寺本堂厨子	富士宮市西山 671	西山本門寺	昭和 29.1.30	

No.	種 別		文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定日	備 考
2	県	建造物	富士山本宮浅間大社社殿	富士宮市宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭和 29.1.30	楼門・拝殿・幣殿・透塀 2
3	〃	〃	大石寺御影堂	〃 上条 2057	大石寺	昭和 41.3.22	附 厨子
4	〃	〃	大石寺三門	〃 〃	〃	〃	
5	〃	絵 画	富士浅間曼荼羅図	〃 宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭和 56.10.23	
6	〃	工芸品	青磁蓮弁文大壺	〃 〃	〃	昭和 52.3.18	
7	〃	〃	青磁浮牡丹文香炉	〃 〃	〃	〃	
8	〃	〃	人形手青磁大茶碗	〃 〃	〃	〃	附 屈輪彫天目台
9	〃	〃	鉄板札紅糸威五枚胴具足	〃 〃	〃	〃	
10	〃	〃	脇差銘出羽大掾藤原国路	〃 大中里 396-2	渡辺 英男	昭和 37.6.15	
11	〃	書 跡	万暦本一切経	〃 上条 2057	大石寺	昭和 52.3.18	2470 冊
12	〃	典 籍	重須本曾我物語	〃 北山 4965	北山本門寺	昭和 53.10.20	10 冊
13	〃	天然記念物	村山浅間神社の大スギ	〃 村山 1151	村山浅間神社	昭和 31.5.24	
14	〃	〃	西山本門寺の大ヒイラギ	〃 西山 671	西山本門寺	〃	
15	〃	〃	北山本門寺のスギ	〃 北山 4965	北山本門寺	昭和 32.5.13	題目スギ 3 本残存
16	〃	〃	大晦日五輪のカヤ	〃 内房 5681	望月 旭	昭和 40.3.19	
17	〃	〃	村山浅間神社のイチョウ	〃 村山 1151	村山浅間神社	昭和 43.7.2	
18	〃	〃	上条のサクラ	〃 上条 923	佐野 一男	〃	
19	〃	〃	富士山芝川溶岩の柱状節理	〃 羽鮒 1539-2	野村 藤男	昭和 59.3.23	
20	〃	〃	猪之頭のミツバツツジ	〃 猪之頭 688	高野 幸孝	昭和 60.11.29	
21	〃	〃	大晦日のタブノキ	〃 内房 5681	望月 旭	昭和 62.3.20	
22	〃	〃	芝川のポットホール	〃 下柚野 319 ^{地先他}	（富士宮市）	平成 7.3.20	及 下柚野 321-2.322-7 地先
23	〃	無形民俗文化財	富士宮囃子	〃 宮町他	富士宮囃子保存会	〃	
1	市	建造物	妙蓮寺 5 棟	富士宮市下条 688	妙蓮寺	平成 23.5.24	附. 客殿内重香盤・35 号
2	〃	〃	平等寺の三門	〃 東町 4-24	平等寺	昭和 60.3.11	平唐薬医門・21 号
3	〃	〃	井出家高麗門及び長屋	〃 狩宿 91-1	富士宮市	平成 7.3.16	31 号

No.	種 別		文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定日	備 考
4	市	絵 画	天象の図	富士宮市村山 1151	村山浅間神社	昭和 55.1.11	11 号
5	〃	絵 画	太郎坊権現の図	〃 〃	〃	〃	〃
6	〃	〃	阿字曼荼羅	〃 〃	〃	〃	〃
7	〃	〃	伝末代上人画像	〃 〃	〃	〃	〃
8	〃	工芸品	伝源義助大薙刀	〃 宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭和 40.5.10	8 号
9	〃	彫 刻	大日如来坐像（胎蔵界）	〃 村山 1151	村山浅間神社	昭和 57.8.23	12 号
10	〃	〃	大日如来坐像（金剛界）	〃 〃	〃	〃	13 号
11	〃	〃	大日如来坐像（胎蔵界）	〃 〃	〃	〃	14 号
12	〃	〃	役行者倚像	〃 〃	〃	〃	15 号
13	〃	〃	不動尊像	〃 〃	〃	〃	17 号
14	〃	〃	隨身像	〃 宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	平成 5.5.25	2 体・29 号
15	〃	書 跡	後陽成天皇宸翰	〃 〃	〃	昭和 40.5.10	7 号
16	〃	典 籍	外国語（英・蘭）辞書類一括	〃 中央町 11-2	中西 信子	昭和 63.4.15	6 冊・27 号
17	〃	古文書	袖日記	〃 大宮町 7-16	横関 及彦	昭和 60.3.11	9 冊・22 号
18	〃	考古資料	三連甕形土器	〃 黒田 1373-13	若林 和司	昭和 55.1.11	野中向原遺跡・10 号
19	〃	〃	安養寺の土偶	〃 杉田 489	安養寺	昭和 57.8.23	16 号
20	〃	〃	駿州富士郡二股村石経塚	〃 栗倉 1050-1	小林 充	昭和 63.4.15	28 号
21	〃	天然記念物	大宮縄状溶岩	〃 元城町 32	富士宮市	昭和 44.4.1	9 号
22	〃	〃	フジキクザクラ	〃 上条 2057	大石寺	昭和 57.8.23	18 号
23	〃	〃	中央町のカヤ	〃 中央町 11-2	中西 信子	〃	19 号
24	〃	史 跡	大室古墳	〃 小泉 1467-1	（上小泉八幡宮）	昭和 60.3.11	24 号
25	〃	〃	中野梅市建立の句碑	〃 黒田 36	本光寺	〃	26 号
26	〃	〃	虚空蔵社古墳	〃 西小泉町 59-4.5	鈴木 英光	平成 5.5.25	30 号
27	〃	無形民俗文化財	火伏念仏	〃 内野	火伏念仏保存会	平成 11.1.26	32 号
28	〃	〃	富士山本宮浅間大社流鏑馬	〃 宮町	浅間大社流鏑馬保存会	平成 18.9.8	34 号

富士宮市文化財年報 第2号

平成25年3月29日

編集 富士宮市教育委員会

発行 富士宮市教育委員会

静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話 (0544) 22-1111(代)

印刷 フジ印刷有限公司